



第3期

群馬県スポーツ推進計画

(令和8年度～令和12年度)



スポーツ大会・
全国障害者スポーツ大会

ふけむり
国スポ・全スポ
ぐんま2029

群馬県

令和8（2026）年3月

知事挨拶 掲載予定



目次

| | |
|------------------------------|-----------|
| 第1章 計画策定の基本的な考え方 | 01 |
| 01 計画策定の趣旨・位置づけ | 02 |
| 02 計画の期間 | 03 |
| 03 スポーツの定義 | 04 |
| 第2章 群馬県のスポーツを取り巻く社会課題 | 05 |
| 01 人口構成の変化 | 06 |
| 02 平均寿命・健康寿命 | 07 |
| 03 スポーツの実施状況 | 08 |
| 04 国の動向 | 11 |
| 第3章 群馬県が目指す姿 | 13 |
| 01 施策体系 | 14 |
| 02 基本理念 | 15 |
| 03 メインコンセプト | 16 |
| 04 「湯けむり国スポ・全スポぐんま」関連の具体的な取組 | 17 |
| 05 政策目標 | 18 |
| 06 政策目標別の取組 | 19 |
| Ⅰ. 県民のスポーツ参加拡大による健康長寿社会の実現 | 19 |
| Ⅱ. パラスポーツの推進を軸とする共生社会の実現 | 36 |
| Ⅲ. スポーツの魅力を活かした活力ある地域創生の推進 | 46 |
| Ⅳ. スポーツの力による感動の創出と誇りの醸成 | 63 |
| 用語解説 | 75 |

第1章

計画策定の基本的な考え方

- 01 計画の趣旨・位置づけ
- 02 計画の期間
- 03 スポーツの定義

ガイドランナー
堀越翔人選手
(伊勢崎市出身)

唐澤剣也選手
(渋川市出身)

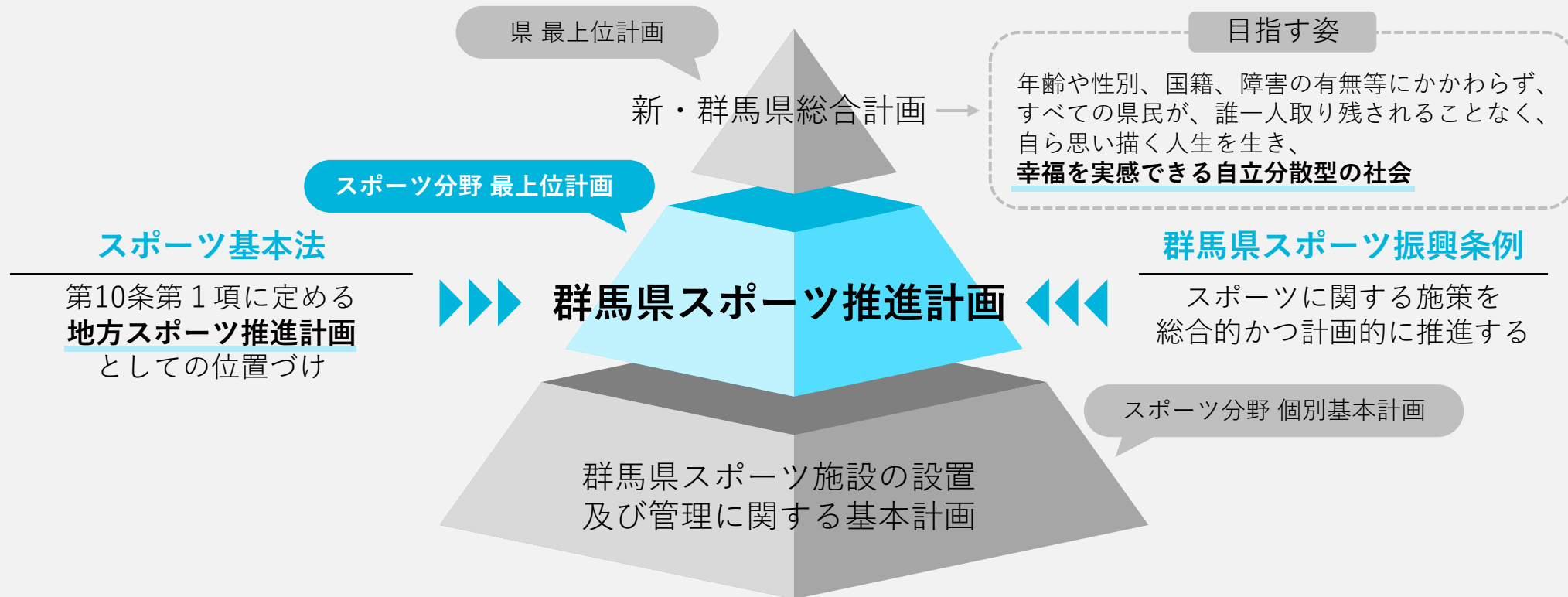
01 計画策定の趣旨・位置づけ

趣旨

令和3（2021）年3月に策定した「群馬県スポーツ推進計画（令和3年度～令和7年度）」は、令和8（2026）3月で計画期間が終了することから、「スポーツ基本法」や「群馬県スポーツ振興条例」の主旨及びスポーツを取り巻く様々な状況を踏まえ、新たに「第3期群馬県スポーツ推進計画（令和8年度～令和12年度）」を策定します。

位置づけ

- ✓ 新・群馬県総合計画に基づくスポーツ分野における **最上位計画**
- ✓ スポーツ基本法第10条第1項に定める **地方スポーツ推進計画**



02 計画の期間

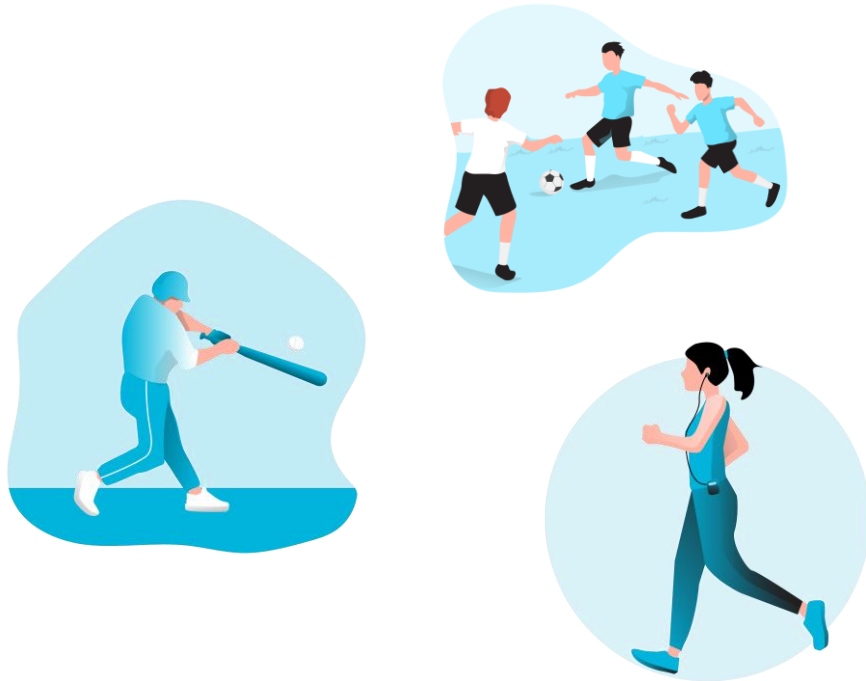
令和8年度（2026年度）から令和12年度（2030年度）までの **5** 年間

| | | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 |
|---|-----------------------|--------------------|-----|----|----|----|------------|---------|-----|-----|-----|
| 国 | 法律 | スポーツ基本法 | | | | | 改正・スポーツ基本法 | | | | |
| | スポーツ基本計画 | 第2期 | 第3期 | | | | | 第4期（予定） | | | |
| 県 | 総合計画 | 新・群馬県総合計画（2040年まで） | | | | | | | | | |
| | スポーツ推進計画 | 第2期 | | | | | 第3期 | | | | |
| | スポーツ施設の設置及び管理に関する基本計画 | 第2期 | | | | | 第3期 | | | | |

03 スポーツの定義

スポーツ基本法における スポーツ

心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自立心その他の精神の涵養等のために、個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動



計画における 定義

スポーツ基本法の考え方を踏まえ、

**高いレベルの競技から楽しみながら身体を動かすこと
までを広くスポーツ**として捉えます。



ルールに基づいて **他者と競い合うスポーツ**



登山やラフティング等の自然に親しむ **アウトドアスポーツ**



健康づくりのためにジムで行う **フィットネス**



勝敗にこだわらない **レクリエーションスポーツ**



一人で手軽にできる **散歩や軽い体操** 等



e スポーツ

群馬県は、全国の自治体で初めて「e スポーツ」と名のつく専門部署を設置し、**e スポーツの特性を活用した「地方創生」と「群馬のブランド力向上」**に取り組んでいることから、前計画から引き続き、**e スポーツを取り込んだ施策を推進**します。

第2章

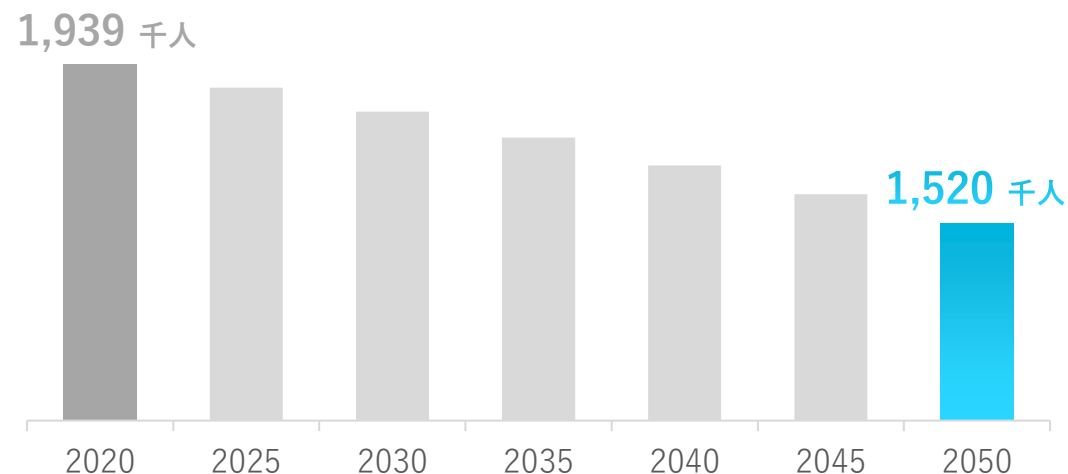
群馬県のスポーツを取り巻く社会課題

- 01 人口構成の変化
- 02 平均寿命・健康寿命
- 03 スポーツの実施状況
- 04 国の動向

01 人口構成の変化

(1) 群馬県の将来人口推計

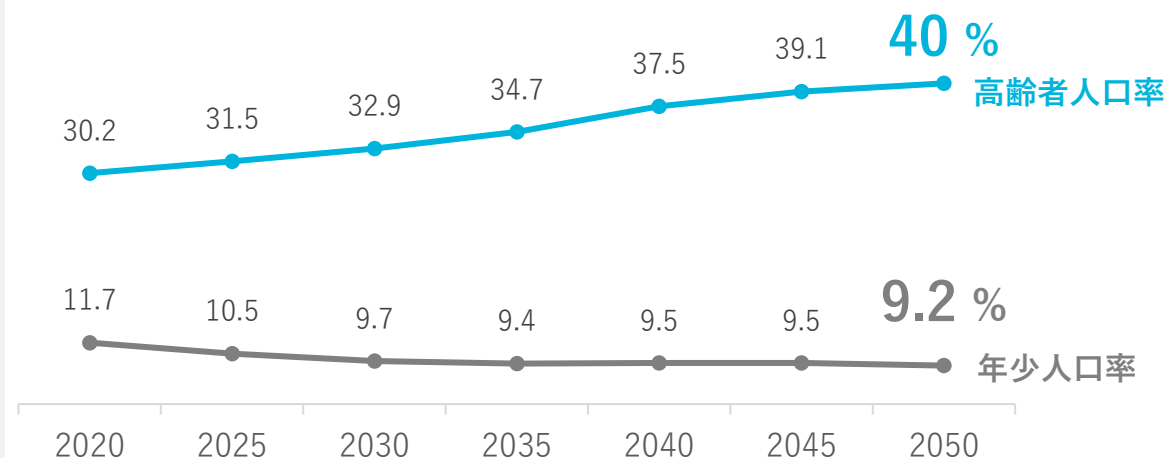
- 群馬県の人口は、令和2（2020）年時点では1,939千人となっていますが、令和32（2050）年には**1,520千人まで減少**すると推計されています。



図表出典：「日本の地域別将来推計人口 令和5（2023）推計」（国立社会保障・人口問題研究所）をもとに作成

(2) 群馬県の高齢者人口率と年少人口率

- 高齢者（65歳以上）人口率は、令和2（2020）年時点では30.2%となっていますが、令和32年（2050）年には40%と**総人口の4割が65歳以上になる**と推計されています。
- 一方、年少（0～14歳）人口率は、令和2（2020）年時点で11.7%となっていますが、令和32年（2050）年には9.2%と、**10%を下回る**割合まで下降すると推計されています。

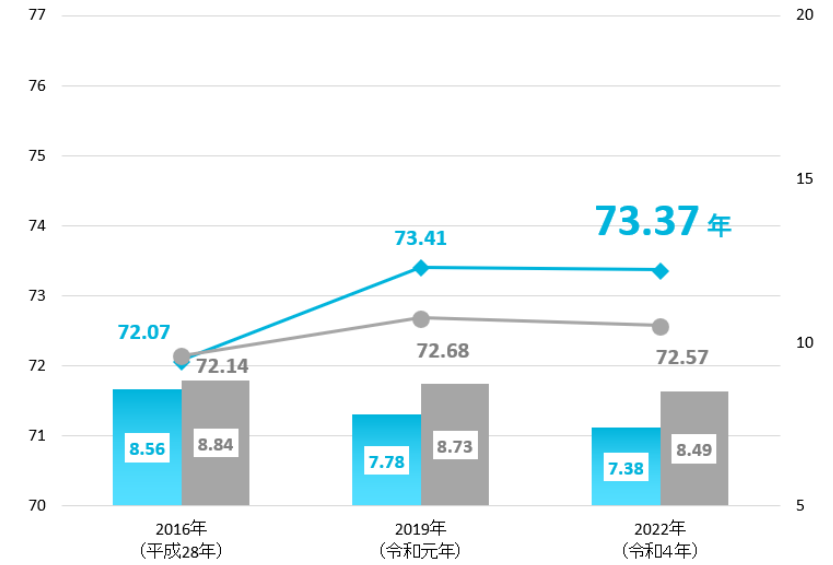


図表出典：「日本の地域別将来推計人口 令和5（2023）推計」（国立社会保障・人口問題研究所）をもとに作成

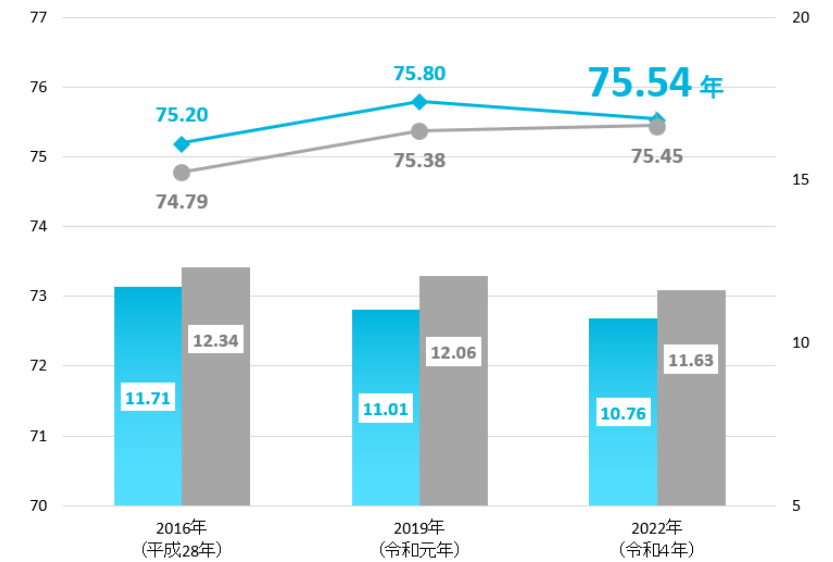
02 平均寿命・健康寿命

- 健康寿命は「健康上の問題で、日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義されています。
- また、平均寿命と健康寿命の差は、「日常生活に制限のある期間（健康ではない期間）」を意味します。
- 群馬県における令和4（2022）年時点の男性の健康寿命は **73.37年**、女性の健康寿命は **75.54年** となっており、平均寿命と健康寿命の差は、男性で **7.38年**、女性で **10.76年** となっています。
- 平成28（2016）年からの推移を見ると、男性・女性ともに健康寿命は延伸していますが、今後さらに「日常生活に制限のある期間」を縮小し、**健康寿命を延伸** していくことが求められます。

男性



女性



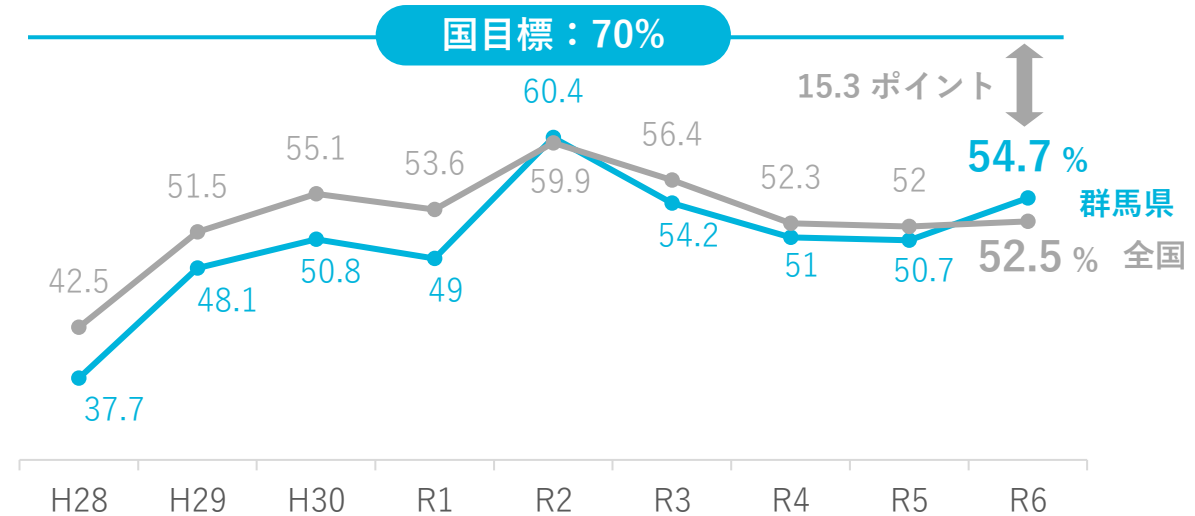
■ 日常生活に制限がある期間の平均 ■ (全国)日常生活に制限のある期間の平均 ▲ 健康寿命 ▲ (全国)健康寿命

出典：「健康寿命の令和4年値について」（厚生労働省）をもとに作成

03 スポーツの実施状況

(1) 群馬県と全国の比較

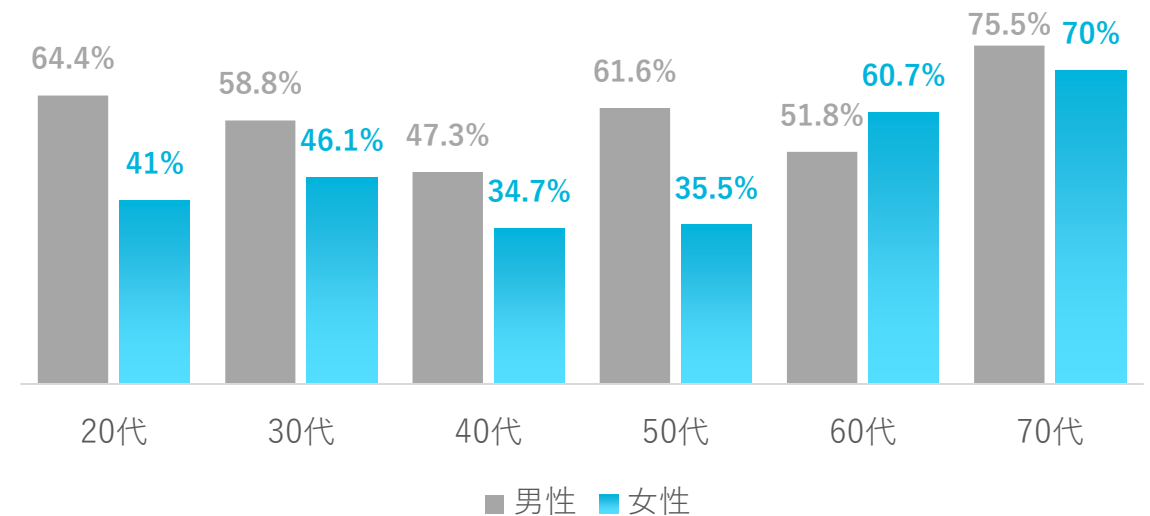
- 群馬県における20歳以上の週1日以上の実施率は、令和6（2024）年時点で**54.7%**となっており、全国平均より**2.2ポイント高い**数値となっています。
- しかし、国が目標としている70%までは**15.3ポイント**の乖離がある状況です。



図表出典：「スポーツの実施状況等に関する世論調査」（スポーツ庁）をもとに作成

(2) 群馬県の性別・年代別の実施率

- 令和6年（2024）度における数値で比較すると、60代を除くすべての世代で男性より**女性の実施率が低い**傾向にあります。
- さらに、年代別では、20代から50代女性の実施率が低く、**働く世代の女性のスポーツ実施を推進**する必要があります。



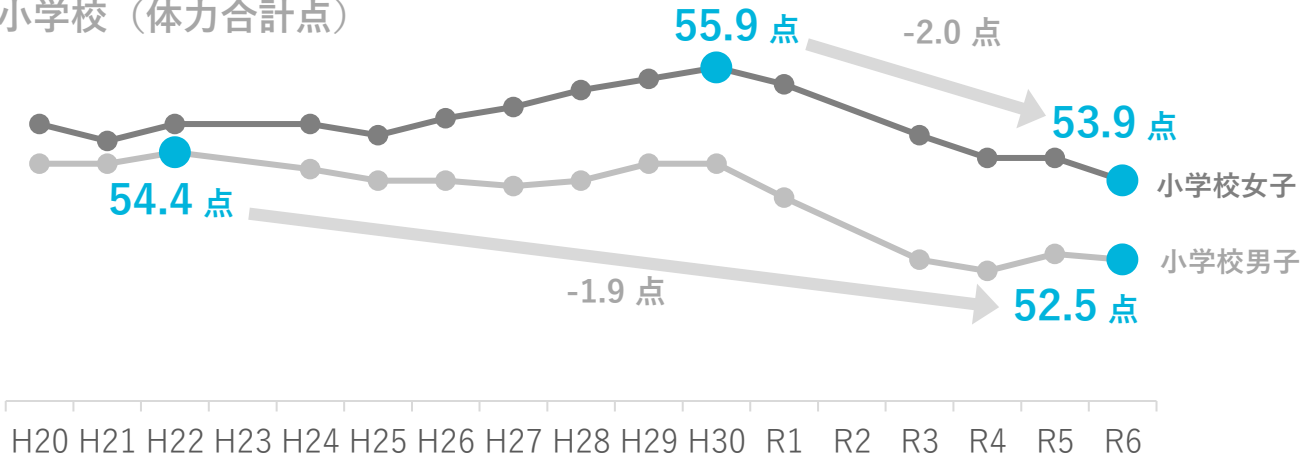
図表出典：「スポーツの実施状況等に関する世論調査」（スポーツ庁）をもとに作成

03 スポーツの実施状況

(3) 子どもの体力・運動能力

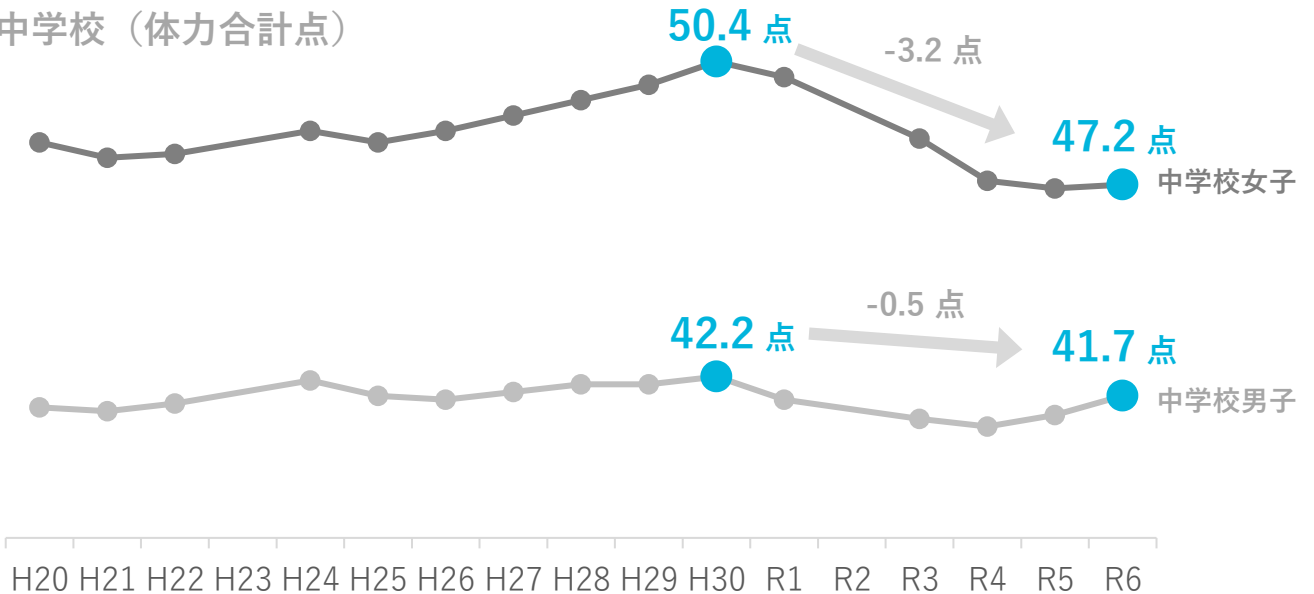
- 子どもの体力・運動能力は、全国的に **下降傾向** にあります。
- スポーツ庁の「令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」によると、令和6年度の体力合計点は小学校男子・女子及び中学校男子・女子ともに、**新型コロナウイルスまん延前の最高値よりも低い数値** となっています。
- 子どもたちが **日常的にスポーツに親しみ、継続できる習慣** の形成への支援が課題となっています。

小学校（体力合計点）



図表出典：「令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」（スポーツ庁）をもとに作成

中学校（体力合計点）

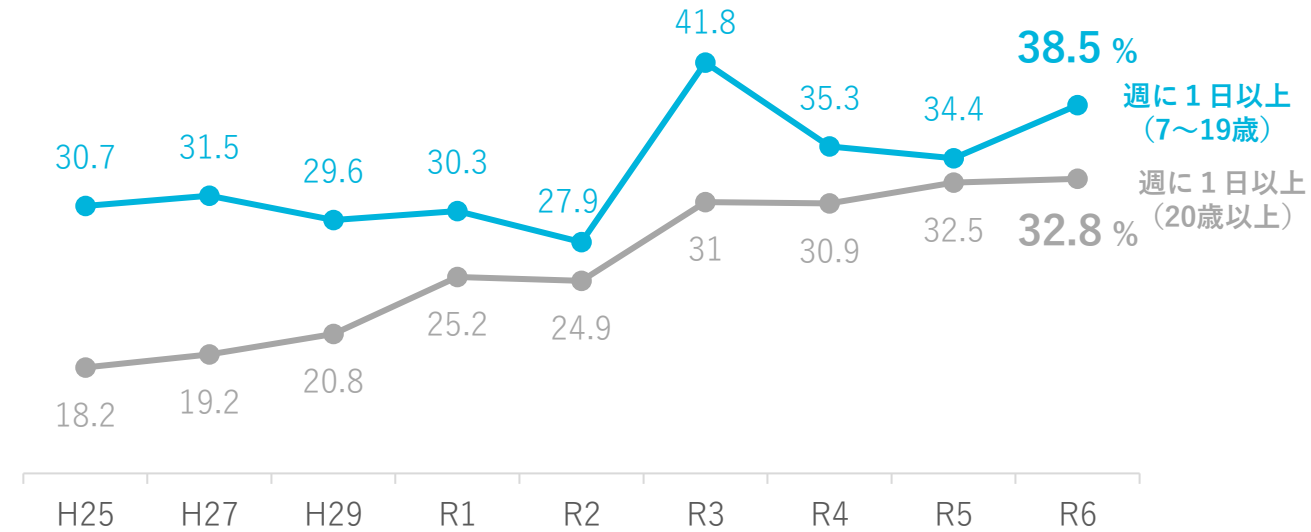


図表出典：「令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」（スポーツ庁）をもとに作成

03 スポーツの実施状況

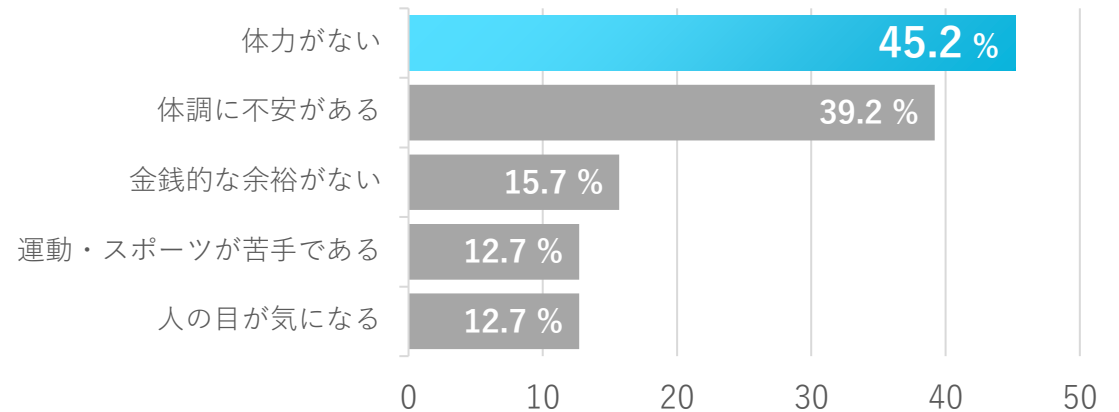
(4) 障害児・者の実施率

- 障害児・者のスポーツ実施率は、全国的に **上昇傾向** にあります。
- スポーツ庁の「令和6年度「障害児・者のスポーツライフに関する調査研究」」によると、7～19歳では **38.5%**、20歳以上では **32.8%（過去最高）** となっています。
- また、「運動・スポーツを行いたいと思うができない」者のうち、「**体力がない**」という点が最も高いハードルとなっています。
- このことから、今後さらに障害児・者のスポーツ実施率を伸ばすために、**体力向上** への取り組みが求められます。



図表出典：「令和6年度「障害児・者のスポーツライフに関する調査研究」」（スポーツ庁）をもとに作成

過去1年間で運動・スポーツの実施頻度が「週1日未満」の実施者のうち
「運動・スポーツを行いたいと思うができない」者



図表出典：「令和6年度「障害児・者のスポーツライフに関する調査研究」」（スポーツ庁）をもとに作成

(1) スポーツ基本法

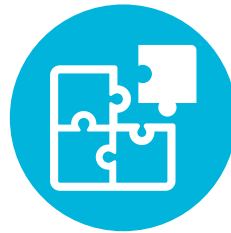
- 平成23（2011）年6月に、昭和36（1961）年に制定された「スポーツ振興法」を50年ぶりに全面改正した **「スポーツ基本法」** が制定されました。
- 同法において、スポーツは、**「心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自立心その他の精神の涵養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動」** と定められ、国民生活において不可欠なものとされています。
- 令和7（2025）年6月に同法が **改正** され、主に次の要素が新たに追加されました。

新しい定義



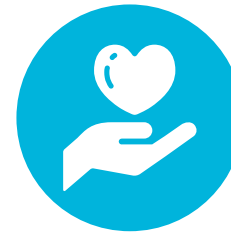
スポーツの果たす役割について、
「する」「見る」「支える」に、
「集まる」「つながる」を加える

社会課題解決への貢献



健康長寿社会や共生社会の実現、
地域や経済の活性化等、
スポーツを通じて社会課題の解決を図る

アスリートの権利保護 ドーピング防止活動の推進









アスリートに対する**「暴力」を防止**
ドーピングの防止活動を一層強化

etc.

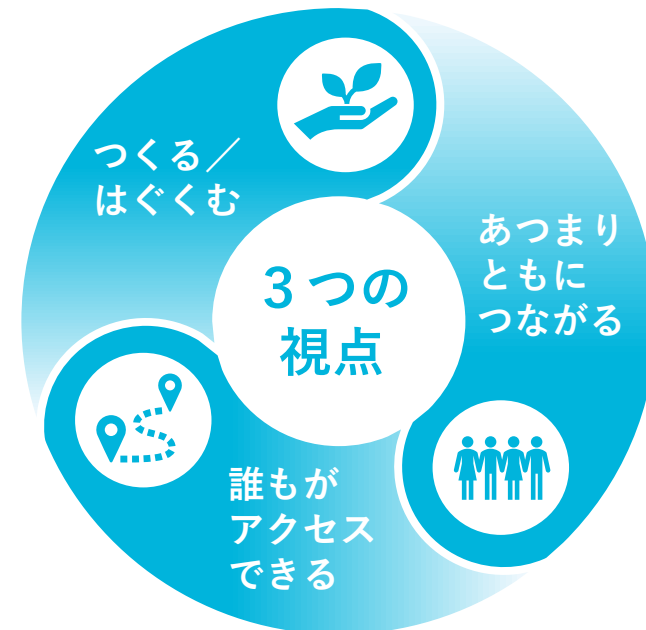
(2) スポーツ基本計画

- 令和4（2022）年3月、「**第3期スポーツ基本計画**」が策定されました。
- 本計画においては、新型コロナウイルス感染症、東京オリンピック・パラリンピック及び様々な社会状況の変化を踏まえ、取り組むべき次の施策が示されています。

東京オリ・パラ大会のスポーツ・レガシーの 継承・発展に資する重点施策

-  持続可能な国際競技力の向上
-  共生社会の実現や多様な主体によるスポーツ参画の推進
-  スポーツを通じた国際交流・協力
-  大規模大会の運営ノウハウの継承
-  地方創生・まちづくり
-  スポーツに関わる者の心身の安全・安心確保

スポーツの価値を高めるための 第3期計画の新たな「3つの視点」を支える施策



第3章

群馬県が目指す姿

- 01 施策体系
- 02 基本理念
- 03 メインコンセプト
- 04 政策目標
- 05 政策目標別の取組

01 施策体系

基本理念

県民誰もがスポーツによって、**県民幸福度-Well-being-**を向上し、活力ある群馬県を創生する

メイン コンセプト

「湯けむり国スポ・全スポぐんま」のアクションから未来につながる価値創出

政策目標

I. 県民のスポーツ参加拡大による
健康長寿社会の実現

II. パラスポーツの推進を軸とする
共生社会の実現

III. スポーツの魅力を活かした
活力ある地域創生の推進

IV. スポーツの力による
感動の創出と誇りの醸成

施策

①スポーツ参画人口の増加

①パラスポーツの普及拡大

①プロスポーツの活用等による
地域の魅力発信

①競技力を向上させる
システムの構築

②地域スポーツを支える
人材の育成と機会の充実

②パラスポーツを支える
人材の育成

②アウトドアスポーツによる
交流人口の増大

②アスリートの発掘・育成

③子どものスポーツ機会の充実

③性別・年齢・国籍等に
関わらないスポーツ参加

③eスポーツ、アーバンスポーツ
による地域経済の活性化

③データサイエンスの活用

④ライフステージに応じた
スポーツ参加

④スポーツ施設の有効活用

④アスリートをサポートする
人材・組織の育成

県民誰もがスポーツによって、**県民幸福度-Well-being-**を向上し、活力ある群馬県を創生する



- 令和3年3月に策定した「群馬県スポーツ推進計画（令和3年度～令和7年度）」で推進してきた各種施策については、一定の成果を上げている一方、「人口減少・少子高齢化」をはじめとする様々な社会課題の影響を受け、新たな問題に直面している施策もあります。
- こうした状況の中、群馬県においては、令和11（2029）年に **国内最大級のスポーツの祭典** である第83回国民スポーツ大会・第28回全国障害者スポーツ大会 **「湯けむり国スポ・全スポぐんま」** が開催されます。
- この「湯けむり国スポ・全スポぐんま」の開催を追い風に、「スポーツの力でこれからの社会を豊かにする」という観点を前計画から継承しながら、**「県民誰もがスポーツによって、県民幸福度-Well-being-を向上し、活力ある群馬県を創生する」** という新たな基本理念の下、その実現に向けて取り組みを加速していきます。

あかぎ国体以来46年ぶりの開催となる、2029年の第83回国民スポーツ大会・第28回全国障害者スポーツ大会。

大会愛称は「**湯けむり国スポ・全スポぐんま**」です。

群馬県の誇る温泉の「湯けむり」のように、湧き上がる創造力とエネルギーを結集し、県民一丸となって『**群馬らしさ**』を体現する**大会**として開催します。**国スポの総合優勝を目指す**とともに、**今の時代に合ったコンパクトな大会**とし、**サステイナブルな大会**としての「**新しいスタンダード**」を示します。

さらに、「湯けむり国スポ・全スポぐんま」を単なるスポーツイベントに終わらせることなく、**持続的な選手強化の仕組みづくり**など、開催を通じて**未来へつなげる価値を創出**し、**群馬県のスポーツ環境の向上**に取り組めます。

現行施策



etc.



国スポ・全スポ開催を機に
施策全体をアップデート



- ✓ 未来へつなげる価値創出
- ✓ 群馬県のスポーツ環境の向上

04 「湯けむり国スポ・全スポぐんま」関連の具体的な取組



スポーツを核とした 地域活力の向上

- 新 アスリートファーストの開・閉会式の開催【政策Ⅲ-①】
- 新 民間企業の力を活用した認知度向上・大会への参加促進【政策Ⅲ-①】
- 新 官民共創による県民幸福度の向上【政策Ⅲ-①】
- 新 湯けむり国スポ・全スポぐんままでの普及促進（eスポーツ）【政策Ⅲ-③】



ワイズスペンディング の推進

- 拡 民間ノウハウの活用【政策Ⅲ-④】
- 拡 市町村と連携した施設整備（拠点スポーツ施設）【政策Ⅲ-④】
- 新 既存競技施設の最大限の活用【政策Ⅲ-④】
- 新 地域経済の活性化につながる施設整備【政策Ⅲ-④】
- 新 計画的な競技用具整備【政策Ⅲ-④】



誰もが参加できる スポーツ文化の醸成

- 拡 スポーツイベント等の開催【政策Ⅰ-①】
- 新 県内市町村でのデモンストレーションスポーツの実施【政策Ⅰ-①】
- 新 障害の有無等に関わらず、共にスポーツを楽しむ機会の創出【政策Ⅱ-①】
- 新 湯けむり国スポ・全スポぐんまの応援参加の促進【政策Ⅳ-④】



持続的な人材育成と 競技力向上の推進

- 新 審判員等の競技役員の養成【政策Ⅰ-②】
- 新 国スポ後も持続する競技力向上の推進（運動部活動の改革推進）【政策Ⅰ-③】
- 新 長期的な競技力向上につながる「ぐんまハイパフォーマンスシステム」の推進【政策Ⅳ-①】
- 拡 国際大会や全国大会で活躍できるジュニアの発掘・育成【政策Ⅳ-②】
- 拡 一貫した指導による小学生・中学生・高校生の育成・強化【政策Ⅳ-②】
- 拡 全国や世界で活躍できるアスリート・指導者の育成【政策Ⅳ-②】
- 拡 活躍が期待されるアスリートの紹介【政策Ⅳ-②】
- 拡 データサイエンスやスポーツテックを活用したアスリート強化【政策Ⅳ-③】
- 拡 健康体力測定とフィールド測定の実施【政策Ⅳ-③】
- 拡 スポーツ栄養士・アスレチックトレーナー等の活用【政策Ⅳ-③】
- 新 専門人材と連携したアスリートへの支援体制の構築【政策Ⅳ-③】
- 拡 質の高い指導者等の養成【政策Ⅳ-④】
- 新 競技団体や民間事業者等との連携【政策Ⅳ-④】
- 新 スポーツを実施する者の安全・安心の確保（競技スポーツ）【政策Ⅳ-④】
- 新 スポーツ・インテグリティの強化（競技スポーツ）【政策Ⅳ-④】
- 拡 群馬県のスポーツ界における好循環の創造【政策Ⅳ-④】



共生社会に向けた歩みの深化

- 拡 関係団体等との普及啓発活動【政策Ⅱ-①】
- 新 子どもから広がる共生社会への理解促進【政策Ⅱ-①】
- 拡 選手の育成・強化（パラアスリート支援）【政策Ⅱ-①】
- 拡 各種障害者スポーツ大会の開催【政策Ⅱ-①】
- 拡 競技団体の育成（パラスポーツを支える人材の確保）【政策Ⅱ-②】
- 拡 パラスポーツ指導員等の養成【政策Ⅱ-②】
- 新 ボランティアの負担軽減等による参加しやすい形の構築【政策Ⅱ-②】
- 新 適正規模の情報支援ボランティアの養成・配置【政策Ⅱ-②】
- 新 誰もが情報にアクセスできる環境整備及び利便性向上【政策Ⅱ-②】
- 拡 バリアフリー・ユニバーサルデザインに配慮した施設の整備【政策Ⅲ-④】
- 新 ユニバーサルデザインへの対応の促進【政策Ⅲ-④】
- 新 バリアフリー調査を踏まえた施設改修等【政策Ⅲ-④】

基本理念を実現するために、以下の4つの政策目標を定め、様々な施策に取り組んでいきます。

政策目標 I

県民のスポーツ参加拡大による健康長寿社会の実現

- より多くの県民がスポーツに親しみ、元気に暮らせるよう、身近な場所でスポーツができる環境を拡大するなど、スポーツの参画人口を増加させ、健康長寿社会の実現に取り組めます。

政策目標 II

パラスポーツの推進を軸とする共生社会の実現

- 県民誰もが障害の有無、年齢、性別及び国籍等に関わらず、スポーツに参画しやすい環境づくりを進め、互いが理解・尊重できる共生社会の実現に取り組めます。

政策目標 III

スポーツの魅力を活かした活力ある地域創生の推進

- 地域に根差したプロスポーツや群馬県の自然を生かしたアウトドアスポーツ、近年盛り上がりを見せるeスポーツ等の様々なスポーツ資源を活用して、地域活性化の推進に取り組めます。

政策目標 IV

スポーツの力による感動の創出と誇りの醸成

- 群馬県ゆかりのアスリートが活躍し、自己実現できるよう支援するとともに、その活躍により県民が感動を覚え、誇りを抱ける社会の実現に取り組めます。

第2期計画の振り返りと第3期計画への反映

※達成状況 ○…目標達成 △…目標未達成のうち、策定時より結果の良いもの ×…目標未達成のうち、策定時より結果の悪いもの

| 第2期計画の振り返り | | | |
|---|--------------------------|---|------|
| ①スポーツ実施率（週1回以上） | | | |
| 策定時（R元） | 目標値（R7） | 現状値（R6） | 達成状況 |
| 30.1 % | 53.6 % | 54.7 % | ○ |
| ②総合型地域スポーツクラブ数 | | | |
| 策定時（R元） | 目標値（R7） | 現状値（R6） | 達成状況 |
| 41 団体 | 51 団体 | 36 団体 | × |
| ③1週間の総運動時間（体育・保健体育の授業時間以外）の全国平均との差 | | | |
| 策定時（R元） | 目標値（R7） | 現状値（R6） | 達成状況 |
| 小5男子… -4.5 分 小5女子… -19.0 分 中2男子… +33.6 分 中2女子… +50.1 分 | 小学校・中学校 ともに 全国平均以上 | 小5男子… -4.29 分 小5女子… -24.09 分 中2男子… +53.01 分 中2女子… +73.34 分 | △ |
| ④高齢者（60歳以上）のスポーツ実施率（週1回以上） | | | |
| 策定時（R元） | 目標値（R7） | 現状値（R6） | 達成状況 |
| 40.1 % | 67.4 % | 64.3 % | △ |

第3期計画
への反映

- 第3期計画では、**スポーツ参加拡大による健康長寿社会**を実現するため、スポーツ参画人口の増加やライフステージに応じたスポーツ参加等に引き続き取り組みます。
- 第2期計画では、高齢者を含めたスポーツ実施率について、目標を上回る水準に達する数字を残しているため、第3期計画ではさらに高い目標を設定しながら、「**マンガ・アニメ等の多様な文化を通じたスポーツ機会の創出**」等の新たな取組も進めていきます。
- また、達成状況が「×」となっている総合型地域スポーツクラブ数については、地域スポーツの普及状況や、学校部活動の地域展開におけるクラブの貢献度を測るより直接的な指標として、「**クラブ数**」ではなく、「**会員数**」の増加を新たな目標とし、クラブのさらなる活性化を図ります。

I. 県民のスポーツ参加拡大による健康長寿社会の実現

施策 1 スポーツ参画人口の増加



スポーツ実施率（週 1 回以上）

| R6 (2024) 年度 | R12 (2030) 年度 |
|--------------|---------------|
| 54.7 % | 70 % |

施策 2 地域スポーツを支える
人材の育成と機会の充実



県連絡協議会に加盟している
総合型地域スポーツクラブの会員数

| R6 (2024) 年度 | R12 (2030) 年度 |
|--------------|---------------|
| 4,600 人 | 6,900 人 |

施策 3 子どものスポーツ機会の充実



1 週間の総運動時間（体育・保健体育の授業時間以外）
の全国平均との差

| R6 (2024) 年度 | R12 (2030) 年度 |
|---|----------------------|
| 小 5 男子・・・ -4.29 分 小 5 女子・・・ -24.09 分 中 2 男子・・・ +53.01 分 中 2 女子・・・ +73.34 分 | 小学校・中学校ともに 全国平均以上 |

施策 4 ライフステージに応じた
スポーツ参加



高齢者（65歳以上）のスポーツ実施率（週 1 回以上）

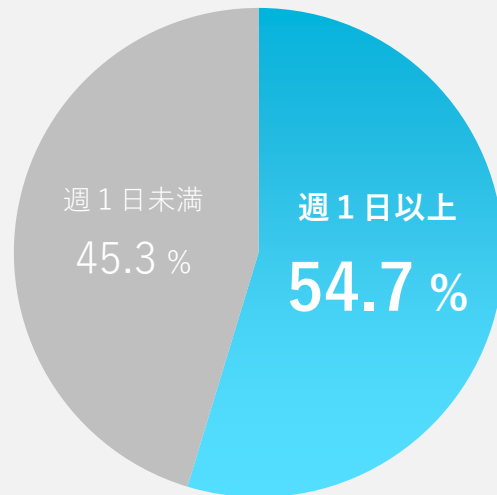
| R6 (2024) 年度 | R12 (2030) 年度 |
|--------------|---------------|
| 69.5 % | 75 % |

施策1. スポーツ参画人口の増加

現状と課題

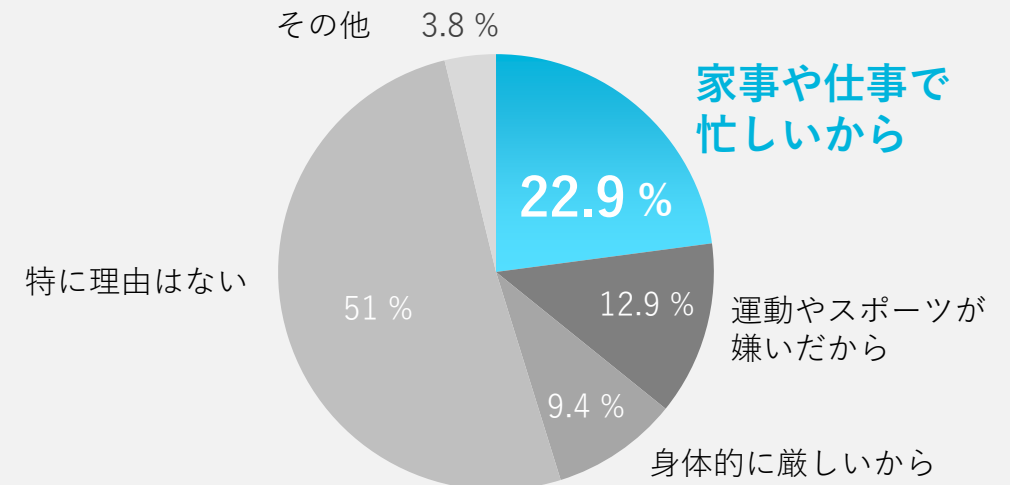
- 令和4（2022）年3月に国が策定した「第3期スポーツ基本計画」では、20歳以上のスポーツ実施率について、週1回以上が70%（障害者は40%）とすることを目標としています。
- 疾病等の予防や生活機能低下のリスクを低減させることにつながるため、日常の運動習慣を身につけることが大切ですが、令和6（2024）年度の調査において、群馬県における20歳以上のスポーツ実施率は、週1回以上が**54.7%**に留まっています。
- また、「スポーツの実施状況」について、県民へのアンケート調査を行ったところ、運動やスポーツをしていない理由として、**「仕事や家事が忙しい」**の割合が高く、運動習慣の定着を図るためにはこうした状況に応じた対策が必要です。

群馬県における20歳以上のスポーツ実施率



図表出典：「スポーツの実施状況等に関する世論調査」（スポーツ庁）をもとに作成

運動やスポーツをしていない理由



図表出典：「令和6年度第2回県政重要課題に係る県民アンケート調査」（群馬県戦略企画課）をもとに作成

施策1. スポーツ参画人口の増加

今後の施策展開

(1) 湯けむり国スポ・全スポぐんまをきっかけとした日常生活のスポーツ機会の拡大

① スポーツイベント等の開催



- 群馬県では、多様な種目が行われる県民スポーツ祭、各地域対抗の県民スポーツ大会や、県内最大規模のランニングイベントであるぐんまマラソン等、様々なスポーツイベントを開催しています。
- また、令和11（2029）年には、湯けむり国スポ・全スポぐんまが、群馬県で開催されます。
- こうしたスポーツイベントは県民がスポーツに親しむ重要な機会になっており、引き続き子どもから高齢者まで多くの県民が参加できるよう、スポーツイベントの充実に努めます。

② 総合型地域スポーツクラブの活動の活性化

- それぞれのライフステージや関心、体力に応じてスポーツ活動に参加できる環境を日常生活の中に創出するため、多世代・多種目・多志向という特徴を持つ総合型地域スポーツクラブの設立や会員数の増加を目標に、群馬県スポーツ協会や市町村等と連携し支援を行います。

③ 県内ウォーキングコース普及啓発

- 楽しく歩くことにより健康につなげるために、県ホームページや県公式アプリ「G-WALK+」で市町村等のウォーキングコースを公開するとともに、健康な歩き方の普及啓発を推進します。



ぐんまマラソンの開催

第83回国民スポーツ大会・第28回全国障害者スポーツ大会
**湯けむり国スポ・全スポ
ぐんま2029**
83rd JAPAN GAMES
28th National Sports Festival
for People with a Disability

施策1. スポーツ参画人口の増加

今後の施策展開

④ 「ぐんま元気 (GENKI) の5か条」普及啓発

- 健康寿命の延伸を目的として策定した、県民に取り組んでほしい健康づくりの実践事項「ぐんま元気 (GENKI) の5か条」を普及して、地域や職場での実践活動を推進するとともに、県公式アプリ「G-WALK+」の活用を通じて、運動習慣の定着を図ります。

⑤ 県内市町村でのデモンストレーションスポーツの実施

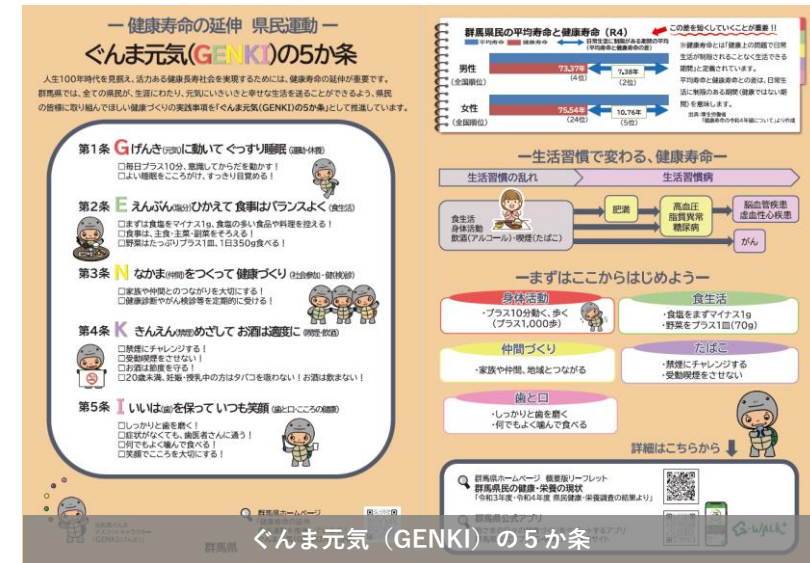


- 湯けむり国スポぐんまでは、県内35市町村すべてでデモンストレーションスポーツを実施します。
- 県民誰もが気軽に多様なスポーツに参加できる機会を創出することで、スポーツの楽しさを実感し、関心を高めることを目指します。

(2) 時間と場所にとらわれないスポーツ体験

① 動画配信による運動習慣の定着及び機会の確保

- 子どもから高齢者までが、家にいながらも体を動かしたり、運動する機会を確保し、また、まとまった時間が確保できない中でも気軽に運動に取り組むことができるよう、健康運動指導士や体育教諭、スポーツ指導者等と連携した動画を群馬県公式動画サイト tsulunos 等を活用して配信します。
- 県公式アプリ「G-WALK+」を活用して動画を配信し、運動習慣の継続と定着化を推進します。



施策1. スポーツ参画人口の増加

今後の施策展開

(3) ICTを活用した運動習慣の定着

① スマートフォンアプリを活用した健康づくり

- 県民が楽しみながら自然に健康になれるよう、スマートフォンアプリを活用した健康づくりとして、県公式アプリ「G-WALK+」の普及を図ります。
- 「G-WALK+」では、ウォーキング等の日々の健康づくりの活動をポイント化することでインセンティブを提供し、身体活動の増加と運動習慣の定着を目指します。



県公式アプリ「G-WALK+」

(4) マンガ・アニメ等の多様な文化を通じたスポーツ機会の創出

① マンガ・アニメ等をきっかけとしたスポーツへの関心の促進 NEW!

- マンガやアニメといったコンテンツが、若年層を中心にスポーツへの関心を高める大きなきっかけとなっています。
- 群馬県では、この点に着目し、より多くの県民にスポーツを「する」「見る」「支える」「集まる」「つながる」といったスポーツへの関心を高めてもらえるよう、マンガ・アニメ等を契機としたスポーツに取り組むきっかけづくりを検討します。

数値目標

スポーツ実施率（週1回以上）

R6 (2024) 年度

54.7 %

R12 (2030) 年度

70 %

施策2. 地域スポーツを支える人材の育成と機会の充実

現状と課題

- スポーツは健康増進や体力づくりだけでなく、まちづくりや地域づくりにおいても重要な役割を果たしています。
- 地域におけるスポーツ活動の推進には、行政、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員、スポーツ協会等のスポーツ推進組織のみならず、地域住民や企業等、**地域全体がスポーツの価値と自身の役割を理解**し、スポーツ振興に向けた連携の輪に主体的に参画することが求められます。
- また、地域スポーツの推進拠点であり、地域連携の結節点となる総合型地域スポーツクラブでは、地域課題の解決に向けて市町村と連携・協働して取り組むクラブと、活動がスポーツ教室等の実施にとどまっているクラブの二極化が続いていることから、**連携・協働が進まないクラブの底上げ**を図るとともに、**クラブの認知度向上**を図る必要があります。
- さらに、湯けむり国スポ・全スポぐんまの開催には、各競技において、資格を持った審判員等の**競技役員が不可欠**です。
- 競技役員の養成には時間がかかることから、十分な人数の審判員を確保するためには、**計画的に養成**する必要があります。

施策2. 地域スポーツを支える人材の育成と機会の充実

今後の施策展開

(1) 地域スポーツを支える人材の確保

① スポーツ推進委員活動の活発化

- スポーツ推進委員は、各市町村において住民に対する実技指導やスポーツ関連の企画運営及び地域と行政の調整を行うなど、地域のスポーツ推進に重要な役割を担っていることから、市町村と連携してブロック研修会やスポーツ推進委員研修会等を開催し、スポーツ推進委員の資質の向上や活動の充実を図ります。

② 大学、企業、プロスポーツ等との連携

- スポーツの裾野の拡大及び技術の向上を図るため、重要なスポーツ資源である大学や企業、プロスポーツチームと連携して、トップアスリート等の技術や経験を地域にフィードバックする取組を進めます。

③ スポーツを支える人や団体のさらなる意識向上と活動内容の周知

- 地域や職場等で、地道な活動を継続し、生涯スポーツの普及や発展に貢献した生涯スポーツ関係者及び生涯スポーツ団体を表彰します。

④ スポーツ少年団を始めとした子どものスポーツに関する団体との連携

- 地域における子どものスポーツの機会を充実させるため、地域で活動するスポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ、競技団体、市町村等、子どものスポーツに関連する様々な団体と連携し、地域のスポーツ活動の活性化に向けた取組を推進します。

⑤ 「ぐんま部活動・地域クラブ活動 指導者・サポーターバンク」の運営 NEW!

- 「ぐんま部活動・地域クラブ活動 指導者・サポーターバンク」を運営し、スポーツ指導者や地域のスポーツを支える人材の掘り起こしと、学校や総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団等における活用を推進します。



施策2. 地域スポーツを支える人材の育成と機会の充実

今後の施策展開

⑥ スポーツを実施する者の安全・安心の確保（生涯スポーツ）



- 本人の希望しない理由等でスポーツから離れたり、スポーツに親しむ機会を奪われないよう、群馬県スポーツ協会と連携し、スポーツ分野におけるあらゆる暴力・不適切指導等の根絶を図るなど、スポーツを実施する者の心身の安全・安心を確保する取組を推進します。

⑦ スポーツ・インテグリティの強化（生涯スポーツ）



- 群馬県のスポーツ・インテグリティを高め、県民・社会がスポーツの価値を十分に享受できるよう、群馬県スポーツ協会と連携し、スポーツ関係者のコンプライアンス意識の向上や、スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブのガバナンスを強化し、組織運営の透明化を図る取組を推進します。

⑧ 審判員等の競技役員の養成



- 湯けむり国スポ・全スポぐんまにおいて、各競技の円滑な実施・運営のため、審判員等の必要な競技役員を養成します。
- 競技役員の養成を推進することで、競技に関わる人の裾野が広がり、地域における競技の活性化につながります。



プロスポーツ感動体験プログラム

施策2. 地域スポーツを支える人材の育成と機会の充実

今後の施策展開

(2) 総合型地域スポーツクラブの育成と支援

① 総合型地域スポーツクラブの認知度向上



- 地域スポーツの推進拠点であり、地域連携の結節点となる総合型地域スポーツクラブは、中学部活動の地域展開の受け皿としても期待されています。
- このため、市町村や群馬県スポーツ協会等と連携し、総合型地域スポーツクラブの活動内容や役割の周知、クラブのキーパーソンの紹介等を通じて、各地域におけるスポーツ活動の推進に向けた検討・取組を後押しします。

③ 総合型地域スポーツクラブの活動の活性化

- 総合型地域スポーツクラブ相互の情報交換や連携、交流等を活性化するとともに、クラブと市町村の連携を促進します。
- また、総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度の活用を推進するとともに、クラブ運営の中心となる人材の育成や資質向上を図るなど、県内の総合型地域スポーツクラブの安定的な運営に向けた支援を行います。

② 総合型地域スポーツクラブの未設置市町村における設立支援

- 総合型地域スポーツクラブについて、群馬県スポーツ協会と連携し、クラブアドバイザーによる未設置市町村向けの巡回相談や個別相談の場を設けるなど、設立支援を行います。

数値目標

県連絡協議会に加盟している 総合型地域スポーツクラブの会員数

R6 (2024) 年度

4,600 人

R12 (2030) 年度

6,900 人

施策3. 子どものスポーツ機会の充実

現状と課題

- 群馬県においては、近年、積極的にスポーツをする子どもと、そうでない子どもの **二極化** が顕著に認められます。
- 小学生においても令和6年度の調査結果において、体育授業時間以外の1週間の総運動時間平均が **全国平均よりも短い** 結果となっています。
- また、食生活の多様化が進む中で、子どもの食の乱れや運動不足等から健康への影響が見られることから、子どもたちの健全な心身の発達のために、食育の推進による **食生活の適切な支援** が必要となっています。
- このような状況において、適正な運動習慣や食習慣が身に付いていない子どもに対する支援の充実等を学校だけでなく、家庭や地域が一体となってい、 **児童生徒がスポーツの楽しさや喜びを味わう** ことで、運動やスポーツが好きな子どもを増やしていく必要があります。
- また、少子化や部活動改革の推進等、子どもを取り巻くスポーツ環境が変化する中、子どもの豊かなスポーツ活動の実現に向け、学校と地域等との連携・協働により、 **持続可能なスポーツ環境を整備** する必要もあります。

施策3. 子どものスポーツ機会の充実

今後の施策展開

(1) 幼児期からの体力向上の推進

① 実践例等の紹介

- 就学前の子どもが運動に親しめるよう、体を動かしたくなる取組を掲載した「就学前のぐんまの子ども はぐくみプラン」等を活用し、保育者に具体的な実践例等を紹介して運動の機会を促進します。

③ 食育推進

- 健全な心と体を培うため、学校等での食育の推進を通して、体づくりや基礎体力の向上に必要な栄養・食生活の正しい知識の普及を促進します。
- また、子どもたちに関わる学校関係者や地域の食育、スポーツ関係者に対して、体づくりや基礎体力の向上に必要な栄養・食生活の正しい知識の普及を図ります。

② 就学前後における一貫した取組推進

- 幼小のつながりを踏まえた体力向上の取組を推進していくため、小学校の体育担当者や保育者を対象とした研修会等を開催し、就学前後の取組を促進します。



学校体育の授業

施策3. 子どものスポーツ機会の充実

今後の施策展開

(2) 学校の体育に関する活動の充実

① 各学校の特色を生かした取組推進

- 各小・中学校ならではの特色ある体力向上の取組を推進するため、学校ごとに地域の特性や児童生徒の現状を踏まえた「体力向上プラン」を作成し、保護者や地域と連携を図り、子どもの体力向上を促進します。

② 発達段階に応じた運動の充実

- 発達段階に応じた運動機会を充実させるため、各学校において「子どもの体力向上ガイドブック」等の指導資料を活用した取組を促進します。

(3) 運動部活動の改革推進

① 運動部活動の地域展開の促進

- 部活動がこれまで果たしてきた教育的価値を踏まえつつ、「多様化する生徒のニーズへの対応」、「地域との連携」及び「学校規模に応じた部活動の設置の在り方」等、今後の部活動について、学校や家庭、地域、関係機関と協議し、部活動を取り巻く社会環境の変化に対応した取組を推進します。
- また、休日の運動部活動については、令和8（2026）年度から令和13（2031）年度までの「改革実行期間」内に原則、すべての学校部活動において地域展開を促進します。

② 国スポ後も持続する競技力向上の推進

- 群馬県では、群馬県スポーツ競技力向上対策推進本部を設置し、令和11（2029）年の湯けむり国スポ・全スポぐんまでの「総合優勝」と「国スポ後にも残る選手強化の仕組みの構築」に取り組んでいます。
- ジュニアの発掘・育成・強化を含めた一貫指導体制を構築するとともに、選手強化には、より一層のデータサイエンスの活用を推進します。
- また、競技の枠を超え、アスリートや指導者への支援体制や活動拠点等の体制整備を確立するとともに、子どもがスポーツに関わる機会を設けることで競技人口の増加・普及を促進します。

施策3. 子どものスポーツ機会の充実

今後の施策展開

(4) 子どもを取り巻く地域のスポーツ環境の充実

① スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブの活性化・連携促進

- 子どものスポーツ環境の充実を図るため、スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ連絡協議会等が行う研修会、講習会及び交流会の開催等、地域スポーツ団体が活性化する取組を支援します。
- また、活動場所の確保や担い手の人材不足等の共通の課題に対応するため、スポーツ少年団と総合型地域スポーツクラブとの連携を促進します。

② プロスポーツに触れる機会の提供

- トップレベルの選手のプレーを見ることがや選手と交流することは、子どものスポーツに対する関心を高め、スポーツに親しむ契機になると期待されます。
- 子どもたちを対象としたスポーツ教室を開催するなど、より多くの触れ合う機会の創出を推進します。



総合型地域スポーツクラブの活動

数値目標

1週間の総運動時間（体育・保健体育の授業時間以外）
の全国平均との差

R6 (2024) 年度

小5男子… -4.29 分
小5女子… -24.09 分
中2男子… +53.01 分
中2女子… +73.34 分

R12 (2030) 年度

小学校・中学校ともに

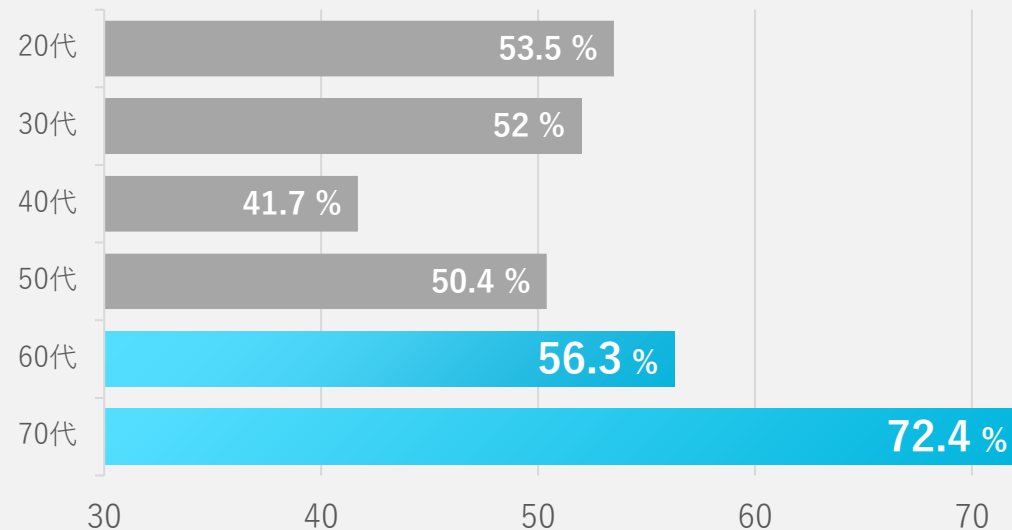
全国平均以上

施策4. ライフステージに応じたスポーツ参加

現状と課題

- 令和6（2024）年度の「スポーツの実施状況等に関する世論調査」（スポーツ庁）によると、群馬県のスポーツ実施率（週1回以上）を年代別で見ると、**70代**が**72.4%**、**60代**が**56.3%**と20代～50代の働き世代より高い数値となっています。
- また、国においては、「**ライフパフォーマンスの向上に向けた目的を持った運動・スポーツの推進**」を実施しており、スポーツを通じて、心身の健康保持増進やQOLを高め、Well-beingの向上を目指しています。
- 群馬県においても、年齢等に関わらず、様々なライフステージにおいてパフォーマンスを高めることを目的に、さらなるスポーツ参加の促進が必要です。

群馬県の年代別のスポーツ実施率（令和6（2024）年度）



図表出典：「スポーツの実施状況等に関する世論調査」（スポーツ庁）をもとに作成

施策4. ライフステージに応じたスポーツ参加

今後の施策展開

(1) ライフパフォーマンスの向上

① 県民のライフパフォーマンス向上 NEW!

- ・アスリートの育成強化で得られるパフォーマンス向上への知見や、スポーツをすることの魅力を県民に伝えることは、県民のスポーツ活動の増加、健康増進やライフパフォーマンスの向上に繋がります。
- ・身近な選手によるスポーツの魅力の発信やスポーツ医・科学データを活用し、県民のライフパフォーマンス向上を促進します。



(2) 高齢者のスポーツ参加の促進

① 各種高齢者スポーツ大会の開催及び派遣

- ・スポーツや文化活動を通じて、高齢者の健康の保持増進と交流を図り、県民総スポーツの輪を広げるとともに、生きがいづくりを進め、ふれあいと活力ある健康長寿社会づくりを推進するため、ぐんまねんりんピックを開催します。
- ・また、全国健康福祉祭（ねんりんピック）へ群馬県選手団を派遣し、スポーツや文化種目の交流大会を始め、健康や福祉に関する多彩なイベントを通じ、高齢者の積極的な仲間づくりや世代間交流を促進するとともに、正しい健康づくりへの理解を深めてもらうよう推進します。

② 高齢者が気軽に楽しめるスポーツ・レクリエーション等の普及

- ・スポーツに関する各種講座等により、高齢者が気軽に楽しめ、身体的に負担の少ないスポーツ・レクリエーションを推進するとともに、総合型地域スポーツクラブをはじめとする地域スポーツ団体が自治会や老人クラブ等との連携を深め、高齢者の身近なコミュニティにおける活動が活性化するように支援します。

施策4. ライフステージに応じたスポーツ参加

今後の施策展開

(3) 日常生活のスポーツ機会の拡大

① 「ぐんま元気（GENKI）の5か条」普及啓発（再掲）

- 健康寿命の延伸を目的として策定した、県民に取り組んでほしい健康づくりの実践事項「ぐんま元気（GENKI）の5か条」を普及して、地域や職場での実践活動を推進するとともに、県公式アプリ「G-WALK+」の活用を通じて、運動習慣の定着を図ります。

③ 介護予防・フレイル予防の推進

- 介護予防関連サポーターが、各地域における高齢者が行う自主的な体操等の取組を支えるボランティアとして活躍し、高齢者の介護予防に取り組んでいます。
- 群馬県では、市町村が実情に応じて実施する介護予防関連サポーターの養成や高齢者の社会参加等を通じた介護予防・フレイル予防の推進、住民主体の通いの場の充実等の取組を、地域リハビリテーション支援センターや地域リハビリテーション広域支援センターと連携し、支援します。

④ 高齢者向けトレーニング動画配信

- 高齢者の生活に必要な筋力を高めるトレーニング等の介護予防に効果的な体操を紹介する動画を配信し、家庭においてもトレーニングに取り組めるよう支援します。

② 総合型地域スポーツクラブの活動の活性化（再掲）

- それぞれのライフステージや関心、体力に応じてスポーツ活動に参加できる環境を日常生活の中に創出するため、多世代・多種目・多志向という特徴を持つ総合型地域スポーツクラブの設立や会員数の増加を目標に、群馬県スポーツ協会や市町村等と連携し支援を行います。



全国ねんりんピック



高齢者向けトレーニング動画

数値目標

高齢者（65歳以上）の スポーツ実施率（週1回以上）

R6 (2024) 年度

69.5 %

R12 (2030) 年度

75 %

第2期計画の振り返りと第3期計画への反映

※達成状況 ○…目標達成 △…目標未達成のうち、策定時より結果の良いもの ×…目標未達成のうち、策定時より結果の悪いもの

| 第2期計画の振り返り | | | | | | | | |
|---|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---|--|
| ①県障害者スポーツ大会の参加人数 | 達成状況 | | | | | | | |
| <table><tr><td>策定時（R元）</td><td>目標値（R7）</td><td>現状値（R6）</td></tr><tr><td>1,872 人</td><td>1,900 人</td><td>609 人</td></tr></table> | 策定時（R元） | 目標値（R7） | 現状値（R6） | 1,872 人 | 1,900 人 | 609 人 | × | ● 新型コロナウイルス感染症の影響により、障害者施設や特別支援学校等からの参加者が激減し、その後も目標策定時ほどは参加人数が回復しておらず、令和6（2024）年度の数値は策定時より減少している状況です。 |
| 策定時（R元） | 目標値（R7） | 現状値（R6） | | | | | | |
| 1,872 人 | 1,900 人 | 609 人 | | | | | | |
| ②高齢者（60歳以上）のスポーツ実施率（週1回以上） | 達成状況 | | | | | | | |
| <table><tr><td>策定時（R元）</td><td>目標値（R7）</td><td>現状値（R6）</td></tr><tr><td>40.1 %</td><td>67.4 %</td><td>64.3 %</td></tr></table> | 策定時（R元） | 目標値（R7） | 現状値（R6） | 40.1 % | 67.4 % | 64.3 % | △ | ● ぐんまねりんピックの開催等により、高齢者のスポーツ参加を促進に取り組んだ結果、令和6（2024）年度の数値は目標未達成ではありますが、大幅に数値が向上しています。 |
| 策定時（R元） | 目標値（R7） | 現状値（R6） | | | | | | |
| 40.1 % | 67.4 % | 64.3 % | | | | | | |
| ③女性のスポーツ実施率 | 達成状況 | | | | | | | |
| <table><tr><td>策定時（R元）</td><td>目標値（R7）</td><td>現状値（R6）</td></tr><tr><td>29.6 %</td><td>51 %</td><td>49.6 %</td></tr></table> | 策定時（R元） | 目標値（R7） | 現状値（R6） | 29.6 % | 51 % | 49.6 % | △ | ● 時間と場所にとらわれないスポーツ体験を推進したことにより、女性のライフステージに応じたスポーツ参加の推進につながり、令和6（2024）年度の数値は目標未達成ではありますが、大幅に数値が向上しています。 |
| 策定時（R元） | 目標値（R7） | 現状値（R6） | | | | | | |
| 29.6 % | 51 % | 49.6 % | | | | | | |

第3期計画への反映

- 第2期計画では、障害者、高齢者及び女性のスポーツ参加に焦点を当てた施策に取り組んでいましたが、第3期計画では、県が推進する「**スポーツを通じた共生社会の実現**」に向けて、パラスポーツを軸とした施策をさらに推進します。
- 特に、第2期計画で達成状況が「×」となっている「**県障害者スポーツ大会の参加人数**」については、パラスポーツに関わる人口を増やすため、まずはパラスポーツを認知してもらうことが重要であると考え、「**パラスポーツの認知度向上**」に向けた目標を新たに設定し、「**障害の有無等に関わらず、共にスポーツを楽しむ機会の創出**」等、様々な施策を展開します。
- また、女性のスポーツ実施率は目標値に近い水準まで到達していますが、女性を含めた働く世代（20代～50代）のスポーツ実施率が低い傾向にあることに着目し、**働く世代をターゲット**とした新たな目標を設定し、性別・年齢・国籍等に関わらない**インクルーシブなスポーツ参加の促進**にも取り組みます。



II. パラスポーツの推進を軸とする共生社会の実現

施策1 パラスポーツの普及拡大



県民アンケート調査
「パラスポーツの試合・プレーを観覧したことがある」割合



施策2 パラスポーツを支える人材の育成



県内の日本パラスポーツ協会公認指導者登録者数
(スポーツコーチ、スポーツ医等含む)



施策3 性別・年齢・国籍等に関わらないスポーツ参加



20代～50代のスポーツ実施率（週1回以上）

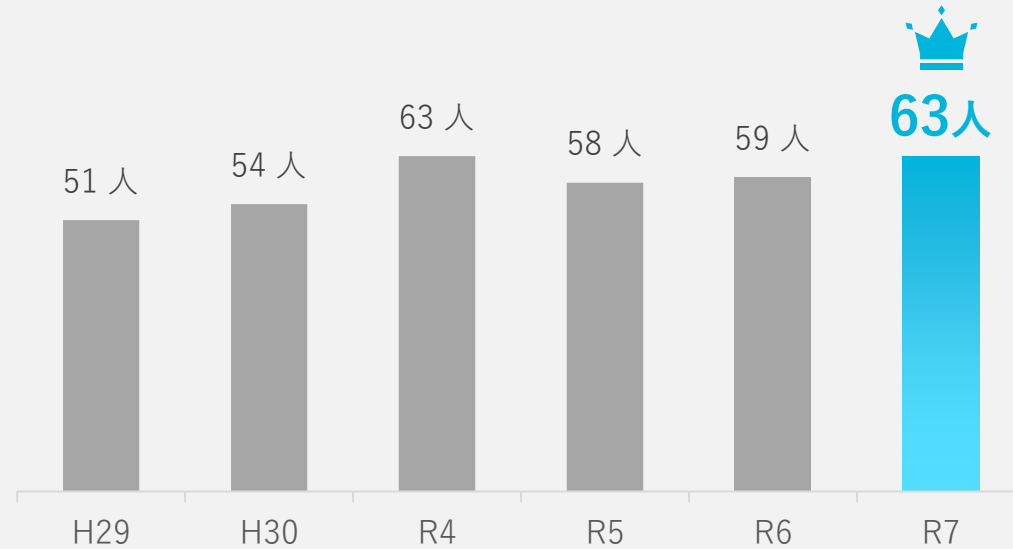


施策1. パラスポーツの普及拡大

現状と課題

- 群馬県では、障害のある人のスポーツ活動を通じた社会参加の促進のため、各種障害者スポーツ大会の開催や全国障害者スポーツ大会への派遣等を行っています。
- また、共生社会の実現に向けて、障害の有無等に関わらず、多様な人々が **パラスポーツを通じて交流** し、**互いを理解し合う機会を創出** していく必要があります。

全国障害者スポーツ大会への選手団派遣人数



※R1～R3は中止または延期

図表出典：群馬県地域創生部スポーツ局スポーツ振興課にて集計・作成

施策1. パラスポーツの普及拡大

今後の施策展開

(1) パラスポーツを通じたつながりの創出

① 障害の有無等に関わらず、共にスポーツを楽しむ機会の創出



- 民間（企業、プロスポーツチーム等）、関係団体、市町村等の多様な主体と相互に連携し、障害の有無等に関わらず、誰もが気軽に参加できるスポーツイベント等を開催します。

② 関係団体等との普及啓発活動



- 群馬県パラスポーツ協会に配置しているパラスポーツ普及メンター等が、パラスポーツを始めたい人や支援したい人からの相談を受け、競技団体等との連携を図ります。
- 各競技団体等が行うパラスポーツの普及啓発活動を支援します。
- 県有スポーツ施設における利用者の満足度向上を図り、施設利用者の増加、パラスポーツの推進につなげます。

③ 子どもから広がる共生社会への理解促進



- 学校等でパラスポーツに触れる機会をつくり、次代を担う子どもたちへの共生社会に対する理解促進を図ります。
- 子どもたちがパラスポーツを通じた体験を、家族や周りの大人たちに伝えること（リバースエデュケーション）により、共生社会に対する理解が社会に広まるよう取り組みます。



子どもから広がる共生社会への理解促進

施策1. パラスポーツの普及拡大

今後の施策展開

(2) パラアスリート支援

① 選手の育成・強化



- 群馬県パラスポーツ協会や各競技団体等と連携し、国際大会や全国レベルでの大会等で活躍が期待される選手の支援を行います。
- アスリートから寄せられる競技環境面や財政面での支援要望に対して、群馬県パラスポーツ協会や競技団体等と連携し、その活動のサポートを行います。

② 各種障害者スポーツ大会の開催



- 障害のある人のスポーツ活動の参加機会の拡大を目的に、群馬県障害者スポーツ大会や記録会等を開催し、選手の競技定着を促進するとともに、選手層の裾野拡大を図ります。



数値目標

県民アンケート調査
「パラスポーツの試合・プレーを
観覧したことがある」割合

R6(2024) 年度

30.6 %

R12 (2030) 年度

50 %

施策2. パラスポーツを支える人材の育成

現状と課題

- 群馬県では、パラスポーツの裾野拡大・競技力向上のため、競技団体の育成や指導員の養成に取り組んでいるところですが、引き続き、**パラスポーツを支える新たな担い手の確保**は大きな課題です。
- 全国障害者スポーツ大会の先催県は、これまで選手団サポートボランティアとして約1,300人を募集してきましたが、ボランティア一人あたりの従事日数が5～6日間と長く、**人員確保の難しさや負担の大きさ**が課題となっています。
- また、観戦者は、選手の家族等、限られた人数にとどまっています。
- パラスポーツの魅力を間近で感じ、障害の有無等に関わらず、互いの理解を深めるため、また、アスリートが持てる力を発揮する上で応援も大事な要素であるため、**パラスポーツの観覧機会を増やすこと**も課題となっています。
- 先催県では約600名の情報支援ボランティア（手話通訳者・要約筆記者等）を養成する例が多く負担である一方、一部会場では活動機会が限られ、十分に力を発揮できない事例も指摘されています。
- 様々な障害のある選手が参加する中、膨大な競技結果や大会進行に関する情報を、**いかに迅速かつ等しく届けるか**が課題となっており、また、会場案内等の情報を分かりやすく伝える必要もあります。

施策2. パラスポーツを支える人材の育成

今後の施策展開

(1) パラスポーツを支える人材の確保

① 競技団体の育成



- パラスポーツを行う競技団体の新規立ち上げや活動を支援するとともに、持続的な指導者の確保に向けた取組をサポートし、パラスポーツに係る環境整備を進めます。

② パラスポーツ指導員等の養成



- 群馬県パラスポーツ協会や群馬県障がい者スポーツ指導者協議会と連携し、初級指導者講習会等を行い、パラスポーツ指導者の養成を行います。
- 県有スポーツ施設や群馬県パラスポーツ協会と連携し、パラスポーツに係る情報発信を行い、ボランティア等のパラスポーツを支える人材の確保につなげます。

(2) 全スポボランティア参加・観戦の幅広い募集

① ボランティアの負担軽減等による参加しやすい形の構築



- 多くのボランティアに参加していただくことは、共生社会の実現に向けて重要なことと捉えています。
- 業務を見直して負担軽減を図り、大会をたくさんの方が参加しやすい形にするとともに、選手団の皆さんが力を最大限発揮できるサポート内容を検討します。
- また、観戦者を幅広く募集して多くの方に湯けむり全スポぐんまを御覧いただき、「スポーツを通じた共生社会の実現」につなげます。



パラスポーツ指導者講習会

施策2. パラスポーツを支える人材の育成

今後の施策展開

(3) 全スポ情報支援ボランティア養成・来場者の利便性向上

① 適正規模の情報支援ボランティアの養成・配置



- 聴覚障害のある選手や観客の皆様到的確に情報が伝わるよう、関係機関とも連携しながら、適正な規模の情報支援ボランティア養成・配置を進めます。
- また、DX技術の活用も視野に入れた効率的な運営体制の構築を図ります。

② 誰もが情報にアクセスできる環境整備及び利便性向上



- DX技術を活用した結果速報や会場案内等を検討し、誰もが情報にアクセスできる環境の整備を図ります。
- また、選手団をはじめとする来場者の利便性を向上し、「群馬県に来て良かった」と思っただけの大会を目指します。



全国障害者スポーツ大会（群馬県選手団）

数値目標

県内の日本パラスポーツ協会公認指導者登録者数
(スポーツコーチ、スポーツ医等含む)

R6 (2024) 年度

309 人

R12 (2030) 年度

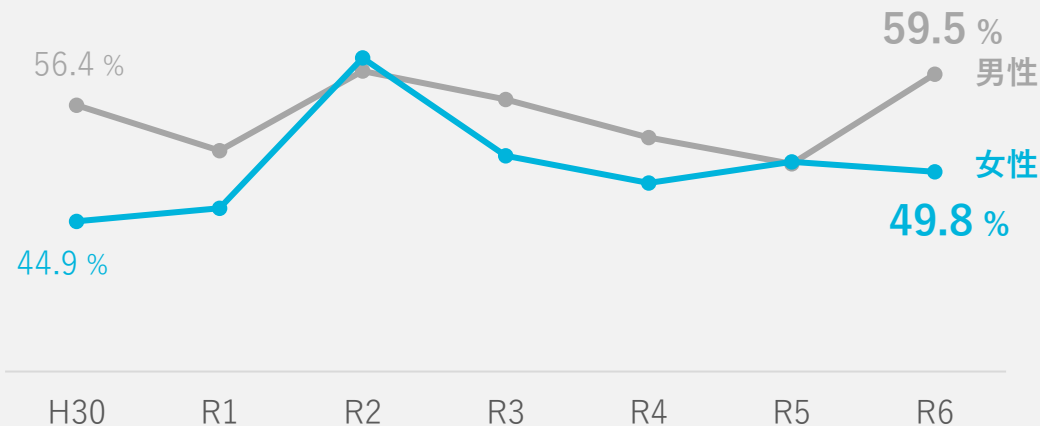
360 人

施策3. 性別・年齢・国籍等に関わらないスポーツ参加

現状と課題

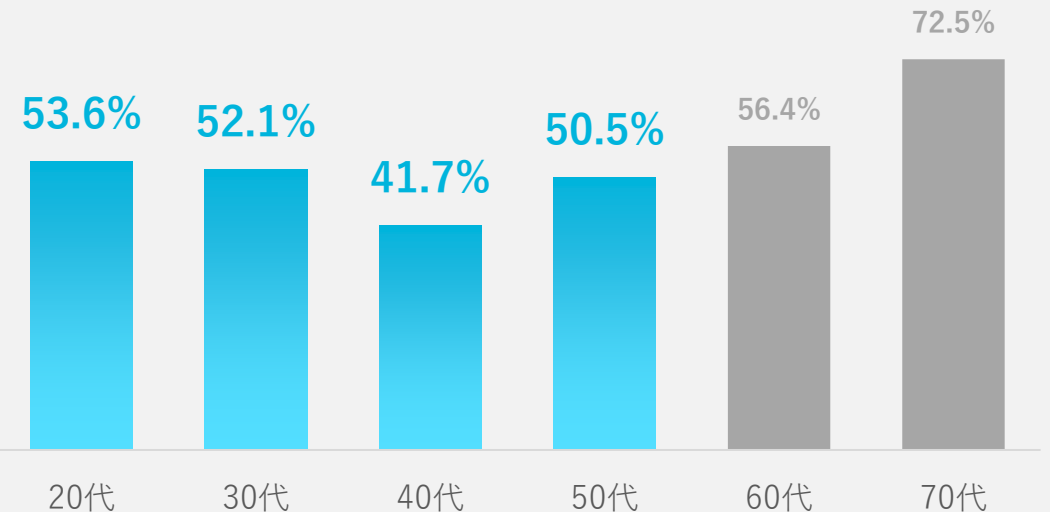
- 群馬県における男女別のスポーツ実施率（週1回以上）を比較すると、男性に比べ、**女性のスポーツ実施率が低い傾向**にあります。
- さらに、年代別では、**20代～50代の働く世代でスポーツ実施率が低い傾向**も見られます。
- また、群馬県における外国人住民数は増加傾向にあり、今後は性別、年齢及び国籍等に関わらず、誰もが互いを尊重し、ともにスポーツを楽しめる **インクルーシブなスポーツ環境整備**を進めていく必要があります。

群馬県における男女別のスポーツ実施率推移



図表出典：「スポーツの実施状況等に関する世論調査」（スポーツ庁）をもとに作成

群馬県の年代別の実施率（R6（2024）年度）



図表出典：「スポーツの実施状況等に関する世論調査」（スポーツ庁）をもとに作成

施策3. 性別・年齢・国籍等に関わらないスポーツ参加

今後の施策展開

(1) 性別・年齢・国籍等に関わらないスポーツ参加の促進

① 気軽にできるスポーツや運動の紹介

- まとまった時間や場所が確保できない中でも、日常生活の中で気軽に取り組むことができるスポーツの普及や、機会の創出に取り組めます。

② 女性のライフステージに応じたスポーツ参加の推進

- 妊娠、出産等のライフステージの変化により、特に20代から50代の女性のスポーツ実施率が低くなっています。
- この世代の女性が気軽にスポーツに取り組めるよう、短い時間でも取り組める運動や子どもと一緒にできるスポーツの普及等を促進します。

③ スポーツエールカンパニーの推進



- スポーツ庁では、従業員・大学生等の健康増進のためにスポーツの実施に向けた積極的な取組を行っている団体を「スポーツエールカンパニー」として認定しています。
- 群馬県でもこの取組を広く周知し、20代から50代の働く世代がスポーツに親しめる環境づくりに取り組めます。

④ 外国人県民に向けたスポーツ情報の発信



- 外国人県民に向けたスポーツ関連施策の情報発信に努め、国籍に関係なくスポーツを楽しめる機会の増加に取り組めます。

数値目標

20代～50代のスポーツ実施率（週1回以上）

R6 (2024) 年度

49 %

R12 (2030) 年度

70 %

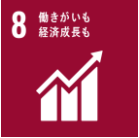
第2期計画の振り返りと第3期計画への反映

※達成状況 ○…目標達成 △…目標未達成のうち、策定時より結果の良いもの ×…目標未達成のうち、策定時より結果の悪いもの

| 第2期計画の振り返り | | | |
|---|---------|------------|------|
| ①プロスポーツチームのホームゲームでの 1試合あたり平均観客動員数（3チーム合計） | | | |
| 策定時（R元） | 目標値（R7） | 現状値（R6） | 達成状況 |
| 5,377人 | 7,000人 | 9,434人 | ○ |
| ②ぐんま県境稜線トレイル登山者数 | | | |
| 策定時（R元） | 目標値（R7） | 現状値（R6） | 達成状況 |
| 56,719人 | 65,000人 | 46,981人 | × |
| ③eスポーツに関連する大会開催回数（県が主催、共催、後援等するもの） | | | |
| 策定時（R元） | 目標値（R7） | 現状値（R6） | 達成状況 |
| 0回 | 4回 | 20回 | ○ |
| ④県内社会体育施設の利用人数 | | | |
| 策定時（R元） | 目標値（R7） | 現状値（R6） | 達成状況 |
| 9,524,052人 | 現状値を維持 | 8,934,324人 | × |
| ● 県内プロスポーツチームの試合開催に合わせたパブリックビューイングの実施や、プロスポーツ感動体験プログラムの実施により、プロスポーツチームの認知度向上・魅力発信を図ったことから、令和6（2024）年度の数値は目標を上回る水準に達しています。 | | | |
| ● ぐんま県境稜線トレイルについて、稜線が100kmつながっているトレイルという部分が強調されてPRされており、登山初心者等のライト層に向けての訴求が弱かったこと等により、令和6（2024）年度の数値は策定時より減少している状況です。 | | | |
| ● 群馬県独自のeスポーツ大会・イベントの開催を推進したことにより、令和6（2024）年度の数値は目標を大きく上回る数値に達しています。 | | | |
| ● 新型コロナウイルス感染症の影響により、県内社会体育施設の利用人数が減少し、令和5（2023）年度から約56万人の利用人数が回復していますが、令和6（2024）年度の数値は策定時より減少している状況です。 | | | |

第3期計画
への反映

- 第3期計画では、**スポーツの魅力を活かした活力ある地方創生**を推進するため、プロスポーツの活用等による地域の魅力発信や、アウトドアスポーツによる交流人口の増大等に引き続き取り組みます。
- 「プロスポーツ」については、観客動員数の目標を上回る水準であり、**チームの存在を、県や地域のさらなる活性化につなげていくため**、「プロスポーツチームと連携して実施した県事業数」を新たな目標に設定し、取組を推進します。
- 「eスポーツ」については、湯けむり国スポ・全スポぐんまにおいて、**文化プログラムの一環**として実施される予定であり、その機運醸成を高めるため、さらに高い目標を設定して取組を推進します。
- 達成状況が「×」となっている「ぐんま県境稜線トレイル」については、**県内の温泉地等と一体的に楽しめる仕組みづくり**を進め、引き続き登山者数の増加に努めます。
- また、「県内社会体育施設の利用」については、人口減少の中でも利用者数を維持しつつ、**中長期的視点に立った計画的な施設整備**や、人口減少等の社会情勢を踏まえた**施設の適正配置**の検討を進めます。



Ⅲ. スポーツの魅力を活かした**活力ある地域創生の推進**

施策 1

プロスポーツの活用等による
地域の魅力発信



プロスポーツチームと
連携して実施した県事業数

| R6 (2024) 年度 | R12 (2030) 年度 |
|--------------|---------------|
| 18 事業 | 50 事業 |

施策 2

アウトドアスポーツによる
交流人口の増大



ぐんま県境稜線トレイル登山者数

| R6 (2024) 年度 | R12 (2030) 年度 |
|--------------|---------------|
| 46,981 人 | 65,000 人 |

施策 3

e スポーツ、アーバンスポーツ
による地域経済の活性化

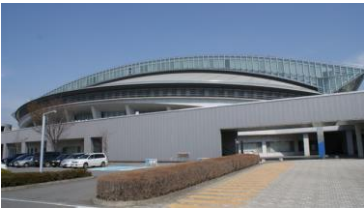


e スポーツに関連する大会開催回数
(県が主催、共催、後援等するもの)

| R6 (2024) 年度 | R12 (2030) 年度 |
|--------------|---------------|
| 20 回 | 25 回 |

施策 4

スポーツ施設の有効活用



県内社会体育施設の利用人数

| R6 (2024) 年度 | R12 (2030) 年度 |
|--------------|---------------|
| 8,934,324 人 | 現状値を維持 |

施策1. プロスポーツの活用等による地域の魅力発信

現状と課題

- 群馬県には、サッカー、野球、バスケットボール、バレーボール等のプロリーグに所属するプロスポーツチームのほか、国内の主要リーグで活躍するスポーツチームがあります。
- こうした地域に根ざしたスポーツチームが活躍することはスポーツの振興だけでなく、**地域活性化**、ひいては**群馬県の魅力の発信や郷土愛の醸成**にもつながります。
- スポーツチームによる幅広い地域や多様な分野への参画を支援し、県民生活におけるチームの存在感を高めることで、さらなる活躍につなげる**好循環**を目指して取り組みます。

群馬県内のプロスポーツチーム



群馬ダイヤモンドペガサス
(野球)



©THESPA
ザスパ群馬 (サッカー)



群馬クレインサンダーズ
(バスケットボール)



群馬グリーンウイングス
(バレーボール)

Mammoth

群馬マンモスレーシング
(サイクルロードレース)



MINAKAMI TOWN.EXE
(3X3)



FLOWLISH GUNMA.EXE
(3X3)



ビックカメラ女子ソフトボール高崎
(ソフトボール)



太陽誘電女子ソフトボール部
(ソフトボール)

施策1. プロスポーツの活用等による地域の魅力発信

現状と課題

- 国民スポーツ大会及び全国障害者スポーツ大会は、国内最大のスポーツの祭典であり、全国から多くの選手、監督及び競技役員等が来県します。
- 円滑な競技運営はもとより、県民が一丸となって、来県者をもてなすとともに、群馬県の魅力を発信して伝えることが大会の成功につながります。
- このため、両大会について県民に知っていただくための広報や大会を盛り上げるための **機運醸成** が不可欠です。
- 国スポの総合開会式は国内最大のスポーツの祭典の始まりを告げる式典として、陸上競技場など会場に盛大に開催されてきました。しかし、その規模の大きさから開催県だけでなく参加するアスリートにとっても負担が大きくなっており、 **持続可能性や地域創生の観点** を踏まえ、その在り方を見直す必要があります。

今後の施策展開

(1) スポーツ分野における官民共創の推進

① 官民共創によるスポーツの展開

- スポーツチームと県との連携拡大やイノベーション・ハブである NETSUGEN の活用等を推進することにより、スポーツによる新たな地域活性化策や産業化が広く展開される環境づくりを進めます。



プロスポーツチームとの官民共創セミナー

施策1. プロスポーツの活用等による地域の魅力発信

今後の施策展開

(2) プロスポーツチームの魅力向上

① 県民へのさらなる定着の促進

- スポーツチームの活動をより多くの県民に知ってもらい、応援してもらえよう、県のホームページや各種媒体を活用した情報発信、tsulunosでの紹介動画の作成・配信を行うとともに、スポーツチームの相互連携による取組を推進します。

② プロスポーツに触れる機会の提供（再掲）

- トップレベルの選手のプレーを見ることがや選手と交流することは、子どものスポーツに対する関心を高め、スポーツに親しむ契機になると期待されます。
- 子どもたちを対象としたスポーツ教室を開催するなど、より多くの触れあう機会の創出を推進します。

(3) トップレベルのスポーツに触れる機会の提供

① スポーツイベントの誘致

- プロスポーツを始めとしたトップレベルのスポーツイベントや大規模大会を群馬県で開催することは、県民のスポーツに対する関心を高めるとともに、地域での交流を活性化させることにつながります。
- プロ野球公式戦や各種の全国大会などのスポーツイベントが継続して県内で開催されるよう支援していきます。

② 「見る」、「支える」、「集まる」機会の提供

- 昭和32（1957）年に始まった全日本実業団対抗駅伝競走大会（ニューイヤースタート）は、昭和63（1988）年の第32回大会から群馬県を舞台に開催されています。
- トップレベルのランナーが出場する同大会を群馬県で開催することは、県民のスポーツに対する関心をより高める契機となるものであり、また、テレビ中継等を通じ群馬県の魅力を全国に発信する機会でもあることから、円滑に開催できるよう支援していきます。

施策1. プロスポーツの活用等による地域の魅力発信

今後の施策展開

(4) スポーツを通じた国際交流の促進

① スポーツを通じた国際交流

- スポーツを通じた国際交流は、スポーツへの意欲向上や競技力の向上に加え、異文化理解やコミュニケーション力の向上、リーダーシップの育成等に繋がります。
- 現在は、トップアスリートの海外派遣等に取り組んでいますが、スポーツを人材育成、文化の発信、経済交流に繋げるプログラムにも取り組み、国際交流を促進します。



プロ野球公式戦の開催



ニューイヤー駅伝



海外派遣支援 (YAOP)

施策1. プロスポーツの活用等による地域の魅力発信

今後の施策展開

(5) 開・閉会式の屋内開催

① アスリートファーストの開・閉会式の開催



- これまでは陸上競技場（屋外）を会場とするケースが大半でしたが、群馬県では両大会の開・閉会式をすべて屋内で開催することを決定しています。
- アスリートファーストの視点に立ち、創意工夫を凝らした新しいスタンダードを示す式典を目指します。

(6) 官民共創による広報・機運醸成

① 民間企業の力を活用した認知度向上・大会への参加促進



- すべての県民が来県者を歓迎し、選手への応援等を通じて、湯けむり国スポ・全スポぐんまが、「県民の誇りを育み、スポーツを通じた地域の活性化に繋がる大会」となるよう、両大会の広報及び機運醸成に、官民共創により取り組みます。

(7) 官民共創による開・閉会式の新たな価値の創出

① 官民共創による県民幸福度の向上



- 開・閉会式では、県庁を含む会場周辺エリア一帯を官民共創の実証フィールドと位置づけ、国スポ・全スポを契機とした官民共創の場を創出するとともに、式典運営や参加者の輸送等に未来につながる新技術を積極的に取り入れます。

数値目標

プロスポーツチームと 連携して実施した県事業数

R6 (2024) 年度

18 事業

R12 (2030) 年度

50 事業

施策2. アウトドアスポーツによる交流人口の増大

現状と課題

- 健康志向の高まりやライフスタイルの多様化により、自然と触れ合いながら心身をリフレッシュできるアウトドアスポーツは引き続き高い関心を集めています。
- 群馬県は、豊かな自然環境を背景として、登山やキャンプ、ラフティング、スキー、スノーシュー等、**多彩なアウトドアスポーツのフィールド**を有していながら、**首都圏とのアクセスが良い**ことが大きな特長です。
- こうした優位性を活かし、群馬県では心と身体を癒やす**リトリート**を推進しています。
- また、自然との共生や持続可能な観光の視点にも留意しつつ、**地域の魅力発信と交流人口の拡大**を目指します。

多彩なアウトドアスポーツ



東京都心から100km圏



出典：群馬県広域道路交通計画2022

施策2. アウトドアスポーツによる交流人口の増大

今後の施策展開

(1) 観光産業と連携したスポーツツーリズムの推進

① ぐんま県境稜線トレイル、アウトドアスポーツの推進

- みなかみ町から嬭恋村までを繋ぐ全長100kmロングトレイルである「ぐんま県境稜線トレイル」について、各沿線市町村や観光協会、アウトドア情報メディア等と連携し、継続的に広報を行うとともに、それぞれの温泉地やアウトドア体験施設等と一体的に楽しめる仕組みづくりを進めることにより、トレイルの利用促進・スポーツツーリズムの推進に取り組みます。



ぐんま県境稜線トレイル

② 持続可能な山岳スポーツの振興

- 県民や観光客が安全かつ持続的に山岳スポーツを楽しむことができるよう、関係機関と連携して、トレイルの安全確認調査、ホームページや野反湖登山案内センター等における登山届提出の啓発や熊の出没・登山道の危険箇所等の情報提供、トレイルの持続的な保全に向けた啓発活動等に取り組みます。



アウトドアスポーツ

施策2. アウトドアスポーツによる交流人口の増大

今後の施策展開

③ ランニングイベントの充実

- ぐんまマラソンでは、ランナーのニーズを踏まえて、運営・サービス面の改善に取り組み、「市民参加型マラソン」として、参加するランナーやボランティア等の満足度の向上に努めます。
- また、プラスチックゴミの削減や障害があり単独走行が困難なランナーに伴走者をつけることができるようにするなど、SDGsを意識した取組を進めます。



ぐんまマラソン（車いすでの参加）

④ サイクリングロードのPRと適切な維持管理

- 県内各地のサイクリングロードマップを配布することにより、サイクリングロードを広くPRし、通勤・通学の自転車利用だけでなく、スポーツやレジャーとしての自転車の魅力を県民に伝えます。
- また、舗装や防護柵、案内表示、除草等の補修・管理を適切に行うことで、サイクリングロードを安心して利用できる環境を維持していきます。



サイクリングロード

数値目標

ぐんま県境稜線トレイル登山者数

R6 (2024) 年度

46,981 人

R12 (2030) 年度

65,000 人

施策3. eスポーツ、アーバンスポーツによる地域経済の活性化

現状と課題

- 湯けむり国スポ・全スポぐんまでは、開催基本構想において、「共生社会の推進」を最大の目標に掲げています。
- eスポーツは、障害の有無等に関わらず誰もが一緒に楽しめるコンテンツであることから、両大会においても、eスポーツに関するプログラムを実施することで、**eスポーツの理解や普及促進**を図る必要があります。
- また、東京2020及びパリ2024オリンピック・パラリンピック競技大会で、スケートボードやブレイキン等が正式種目となり、アーバンスポーツは一層注目を集めています。
- アーバンスポーツは**日常生活におけるスポーツの機会拡大とも親和性**があり、今後も更なる普及促進が求められます。

日本eスポーツ市場規模



図表出典：「日本eスポーツ白書2024／角川アスキー総合研究所」（一般社団法人日本eスポーツ連合）をもとに作成

日本eスポーツファン数（試合観戦・動画視聴）



図表出典：「日本eスポーツ白書2024／角川アスキー総合研究所」（一般社団法人日本eスポーツ連合）をもとに作成

施策3. eスポーツ、アーバンスポーツによる地域経済の活性化

今後の施策展開

(1) eスポーツの普及・拠点化

① eスポーツの普及促進

- 年齢や性別、身体能力による差が少ないeスポーツの特徴を活かし、多くの県民がeスポーツに親しみ、楽しむとともに、eスポーツを通じた交流等が生まれるよう、市町村や企業・団体等と連携し、eスポーツの普及促進に向けた取組を進めます。

② eスポーツの拠点化

- eスポーツの大会、イベント等の開催及び誘致を引き続き推進し、eスポーツの競技人口やファン層の増大とともに、eスポーツ関連産業で活躍できる人材育成も併せて推進することで、eスポーツの拠点化に向けた取組を進めます。

(2) 文化プログラムによるeスポーツの推進

① 湯けむり国スポ・全スポぐんまでの普及促進

- 湯けむり国スポ・全スポぐんまにおいて、文化プログラムの一つとして、eスポーツに関する取組を実施することで、eスポーツに積極的に取り組む群馬県の先進性を発信するとともに、eスポーツの普及促進を図ります。



(3) アーバンスポーツを活用した地域活性化

① アーバンスポーツの普及促進

- 若者のスポーツ参加促進や交流人口の増大を図るため、市町村や企業等と連携し、アーバンスポーツに関連する情報の発信等により普及促進を行うほか、アーバンスポーツに関連するイベントの開催支援や誘致を行います。

数値目標

eスポーツに関連する大会開催回数
(県が主催、共催、後援等するもの)

R6 (2024) 年度

20 回

R12 (2030) 年度

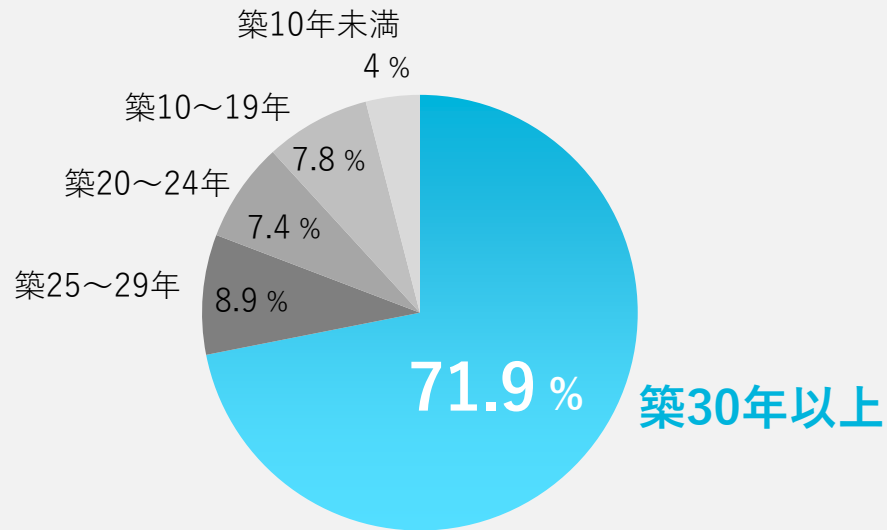
25 回

施策4. スポーツ施設の有効活用

現状と課題

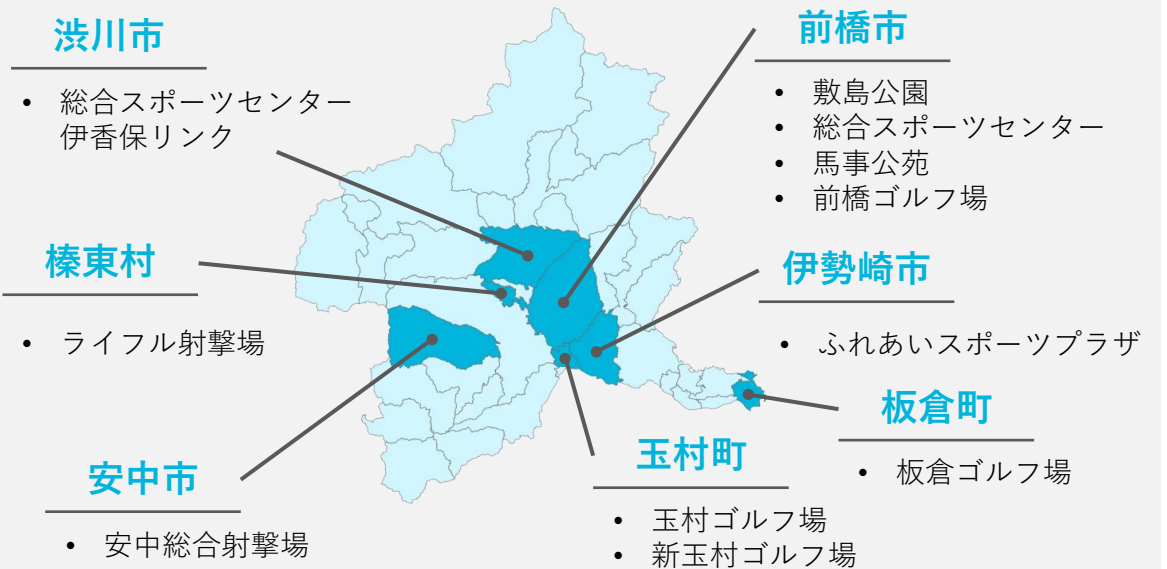
- 県有施設をはじめとする群馬県内の主な公共スポーツ施設については、築30年以上を経過する施設が **71.9%** となっている一方で、**OPEN HOUSE ARENA OTA（太田市）** や **清水善造メモリアルテニスコート（高崎市）** 等、魅力的な施設も新たに整備されています。
- さらに、県においても、湯けむり国スポ・全スポぐんまの開催に向けて、**敷島公園新水泳場の整備** を進めています。

県内の主な公共スポーツ施設の築後経過年数



図表出典：群馬県地域創生部スポーツ局スポーツ振興課にて集計・作成

県有スポーツ施設一覧



図表出典：群馬県地域創生部スポーツ局スポーツ振興課にて作成

施策4. スポーツ施設の有効活用

現状と課題

- また、湯けむり国スポ・全スポぐんまの開催を契機に施設の新設を推進することで、県内スポーツ施設の整備・充実が図られる一方、施設整備費や維持管理費について、将来的に地域の負担増大が懸念されます。**既存施設を最大限活用**するとともに、新設・改修する場合は、大会後も多くの人に親しまれる施設となるよう**持続可能性にも配慮した施設整備**が求められています。
- 県民の様々なニーズに適切に応えるスポーツ環境の整備を進めるとともに、障害のある人や子育て中の人、高齢者が安心して施設を利用し、スポーツに親しむことができるよう、全スポを契機として施設の**バリアフリー化等**を一層推進する必要があります。

今後の施策展開

(1) 中長期的視点に立った計画的なスポーツ環境の整備

① 将来を見据えた計画的な整備の推進



- ・ 県内スポーツ施設は、築30年以上を経過する施設が継続的に多数運営されており、老朽化や維持管理費の増大、記録的猛暑への対応等、様々な課題を抱えています。
- ・ こうした状況を踏まえ、さらなるスポーツ環境の向上を目指し、将来を見据えた計画的な施設整備を検討し、推進します。

② 県内スポーツ施設の適正配置の検討



- ・ 県内スポーツ施設について、老朽化や人口減少・少子高齢化等の社会情勢を踏まえ、県民の利用に適したスポーツ施設を持続的に提供していけるよう、施設の適正配置に係る検討を進めます。

施策4. スポーツ施設の有効活用

今後の施策展開

(2) 民間連携を含めたストックの有効活用

① 既存施設の有効活用



- ・ 既存施設については、誰もが安全に競技や観戦ができ、大規模なイベント等にも対応できるよう、定期的な点検や補修等の維持管理を行い、引き続き有効活用していきます。

② 民間ノウハウの活用



- ・ 施設の運営や整備にあたっては、引き続き指定管理者制度やPFI、P-PFI制度等による民間ノウハウを活用し、経費節減を図りつつ、施設の活性化や魅力向上を図ります。

(3) 拠点スポーツ施設の効率的な維持管理

① 市町村と連携した施設整備



- ・ 「群馬県スポーツ施設の設置及び管理に関する基本計画」において、「競技別拠点スポーツ施設」に位置づけた施設について、市町村と連携し効率的な維持管理に努めます。

(4) 誰もが利用しやすい施設の整備

① バリアフリー・ユニバーサルデザインに配慮した施設の整備



- ・ 誰でも安全に安心して施設を利用できるよう、段差の改修やスロープの設置、バリアフリースイレへの改修等の施設整備を推進します。

施策4. スポーツ施設の有効活用

今後の施策展開

(5) 既存競技施設を活用した両大会の開催

① 既存競技施設の最大限の活用



- 湯けむり国スポ・全スポぐんまにおける大会の競技施設は、原則として既存施設を活用します。
- 施設の新設・改修にあたっては、将来にわたって施設が果たす役割と財政負担のバランスを考慮し、整備費の抑制に努めます。

(6) 地域の価値向上につながる施設整備

① 地域経済の活性化につながる施設整備



- 施設の新設・改修にあたっては、大会開催後の地域スポーツ振興への有効的な活用を考慮します。
- 敷島公園新水泳場を整備（令和10（2028）年開業予定）し、競技力の向上や選手育成に寄与する練習拠点、誰もが安全で安心してスポーツを楽しめる共生社会を目指す施設とします。
- また、eスポーツやアーバンスポーツ等の新しいジャンルのスポーツを巻き込み、群馬のブランド力向上及び関連産業の育成を促進します。

(7) 競技用具の整備

① 計画的な競技用具整備



- 湯けむり国スポ全スポぐんまの競技用具整備にあたっては、県と会場地市町村、競技団体が連携して、「現有」「借用」「購入」の調達方法を十分に検討し、必要な用具の整備を計画的に行います。



敷島公園新水泳場（50mプール）

施策4. スポーツ施設の有効活用

今後の施策展開

(8) 競技会場のバリアフリー化

① ユニバーサルデザインへの対応の促進



- 施設整備にあたっては、両大会の競技運営に支障がないよう整備するだけでなく、大会に参加する誰もが利用しやすい環境となるよう、ユニバーサルデザインへの対応を促進します。

(9) 全スポ競技施設のバリアフリー化

① バリアフリー調査を踏まえた施設改修等



- 年齢、性別、障害の有無等に関わらず、全スポに参加するすべての人にとって使いやすい競技会場とするため、会場のバリアフリー状況等に関する調査を実施しました。
- 当該調査で受けた指摘や意見等を踏まえ、全スポ開催までに施設改修等の整備に取り組みバリアフリー化を推進します。



数値目標

県内社会体育施設の利用人数

R6 (2024) 年度

8,934,324 人

R12 (2030) 年度

現状値を維持

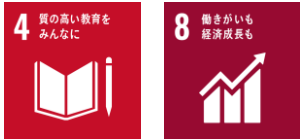
第2期計画の振り返りと第3期計画への反映

※達成状況 ○…目標達成 △…目標未達成のうち、策定時より結果の良いもの ×…目標未達成のうち、策定時より結果の悪いもの

| 第2期計画の振り返り | | | | | | | | |
|---|----------|----------|----------|-------|-------|-------|-----------|---|
| <div>①全国大会優勝者数・国際大会入賞者数</div> <table><tr><td>策定時 (R元)</td><td>目標値 (R7)</td><td>現状値 (R6)</td></tr><tr><td>111 人</td><td>150 人</td><td>154 人</td></tr></table> | 策定時 (R元) | 目標値 (R7) | 現状値 (R6) | 111 人 | 150 人 | 154 人 | 達成状況 ○ | <ul style="list-style-type: none">令和5（2023）年度から「ぐんまハイパフォーマンスシステム」を稼働させ、ダイレクター制度を中心に据えて、アスリート強化事業等の抜本的な見直しを推進していることにより、令和6（2024）年度の数値は目標を上回る水準に達しています。 |
| 策定時 (R元) | 目標値 (R7) | 現状値 (R6) | | | | | | |
| 111 人 | 150 人 | 154 人 | | | | | | |
| <div>②「アスリート・ジョブサポートぐんま」事業で採用したアスリートの人数（延べ）</div> <table><tr><td>策定時 (R元)</td><td>目標値 (R7)</td><td>現状値 (R6)</td></tr><tr><td>0 人</td><td>10 人</td><td>5 人</td></tr></table> | 策定時 (R元) | 目標値 (R7) | 現状値 (R6) | 0 人 | 10 人 | 5 人 | 達成状況 △ | <ul style="list-style-type: none">策定時よりも数値が増加していますが、大学生アスリートへの周知不足等もあり、目標値の数値比較すると伸び悩んでいる状況です。 |
| 策定時 (R元) | 目標値 (R7) | 現状値 (R6) | | | | | | |
| 0 人 | 10 人 | 5 人 | | | | | | |
| <div>③メディカルチェック・筋力測定実施件数（総合スポーツセンター）</div> <table><tr><td>策定時 (R元)</td><td>目標値 (R7)</td><td>現状値 (R6)</td></tr><tr><td>303 件</td><td>400 件</td><td>250 件</td></tr></table> | 策定時 (R元) | 目標値 (R7) | 現状値 (R6) | 303 件 | 400 件 | 250 件 | 達成状況 × | <ul style="list-style-type: none">種目や競技者のニーズに合った測定カスタマイズが不足していることや、データを指導に落とし込む人材（スポーツアナリスト）とそのノウハウが不足していること等が要因となり、令和6（2024）年度の数値は策定時より減少している状況です。 |
| 策定時 (R元) | 目標値 (R7) | 現状値 (R6) | | | | | | |
| 303 件 | 400 件 | 250 件 | | | | | | |

第3期計画への反映

- 第3期計画では、**スポーツの力による感動の創出と誇りの醸成**に向けて、データサイエンスを活用したアスリート育成や、アスリートを応援する文化の醸成等の施策に取り組みます。
- 第2期計画において、目標を上回る水準に達している「全国大会優勝者数・国際大会入賞者数」については、群馬県のアスリートがより一層好成績を残せるよう、**持続的なアスリート強化策である「ぐんまハイパフォーマンスシステム」**の確立に向けた取組を加速させます。
- 一方、目標値に対して現状値が伸び悩んでいる「**「アスリート・ジョブサポートぐんま」事業で採用したアスリートの人数（延べ）**」については、**アスリートに理解のある企業の拡大等**に取り組みながら、引き続き採用人数の増加を目指します。
- また、達成状況が「×」となっている「**メディカルチェック・筋力測定実施件数**」については、専門的な人材等も活用しながら、「**健康体力・フィールド測定件数**」に改め、**データサイエンスの活用**を促進します。



IV. スポーツの力による感動の創出と誇りの醸成



施策 1

競技力を向上させる
システムの構築

| 全国大会優勝者数・国際大会入賞者数 | |
|-------------------|---------------|
| R6 (2024) 年度 | R12 (2030) 年度 |
| 154 人 | 186 人 |

施策 2

アスリートの発掘・育成

| ぐんまスーパーキッズ・スタージュニア プロジェクト競技数 | |
|---------------------------------|---------------|
| R6 (2024) 年度 | R12 (2030) 年度 |
| 16 競技 | 25 競技 |

施策 3

データサイエンスの活用

| 健康体力・フィールド測定 | |
|--------------|---------------|
| R6(2024) 年度 | R12 (2030) 年度 |
| 1,347 件 | 2,000 件 |

施策 4

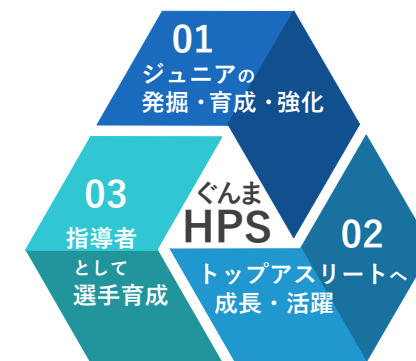
アスリートをサポートする
人材・組織の育成

| 「アスリート・ジョブサポートぐんま」事業で 採用したアスリートの人数（延べ） | |
|---|---------------|
| R6 (2024) 年度 | R12 (2030) 年度 |
| 5 人 | 22 人 |

施策1. 競技力を向上させるシステムの構築

現状と課題

- 県内からトップアスリートを生み出すためには、ジュニアの発掘・育成、トップアスリートに育てる一貫指導体制、またそのアスリートが指導者となり、県内で指導を続ける持続的な環境があることが大切です。
- 群馬県では、このような選手・指導者循環の仕組み「**ぐんまハイパフォーマンスシステム**」の推進に取り組んでいますが、段階ごと競技種目ごとに取組には差があります。



ぐんまハイパフォーマンスシステム

今後の施策展開

(1) 競技力向上対策の根幹となる「ぐんまハイパフォーマンスシステム」の推進

① 長期的な競技力向上につながる「ぐんまハイパフォーマンスシステム」の推進



- 全国大会や世界で活躍するアスリートを育てるためには、トップアスリートを集約し、高い指導力を持つ指導者から長期的・専門的なプログラムに基づいて、アスリートはより高い競技力を、指導者はより高いレベルの指導力を身につける必要があります。
- さらに、高い競技力を身につけたアスリートが、その後、指導者として、選手強化に関わることで、持続的な競技力の向上に繋がります。
- このため、各競技で長期的な競技力向上につながる「強化拠点」や「一貫指導体制」を構築することへの支援に加え、選手・指導者として群馬県で活躍するための支援を行います。

数値目標

全国大会優勝者数・国際大会入賞者数

R6 (2024) 年度

154 人

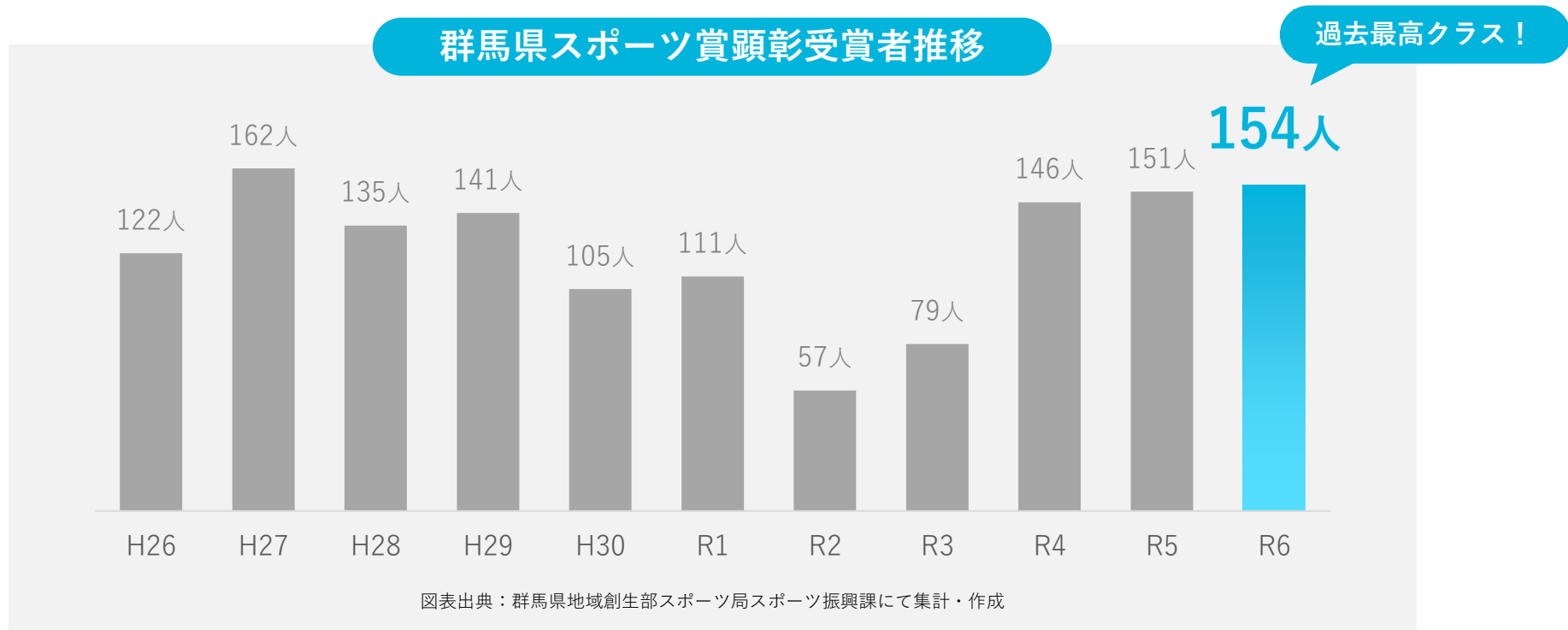
R12 (2030) 年度

186 人

施策2. アスリートの発掘・育成

現状と課題

- 群馬県では、将来のトップアスリートの発掘・育成のために、小学生年代向けのプレキッズ事業やスーパーキッズ事業、中学生年代向けのスタージュニア事業を展開しています。
- 今後は、より多くの種目に、スーパーキッズ事業やスタージュニア事業等の発掘・育成の仕組みを展開し、**群馬から世界で活躍する選手が誕生**できるよう支援をしていきます。



施策2. アスリートの発掘・育成

今後の施策展開

(1) ジュニア選手の発掘・育成と強化

① スポーツを始めるきっかけづくり

- ・ スポーツを始めるには、「楽しさ」を知り、「気軽に、アクセスできること」が必要です。
- ・ このため、多種多様なスポーツの魅力を体験できる場や機会を提供するとともに、誰もが気軽にスポーツを始められるように、地域のスポーツクラブ等との接点づくりを促進します。



ぐんまプレキッズ

② 国際大会や全国大会で活躍できるジュニアの発掘



- ・ 世界で活躍できるアスリートの輩出には、ジュニア期からスポーツに触れる機会が必要です。
- ・ 競技団体と連携を取り、各競技種目で競技体験会を開催するなど、スポーツをはじめる機会を確保できるよう支援していきます。



ぐんまスーパーキッズプロジェクト



ぐんまスーパーキッズプロジェクト卒業生の活躍

施策2. アスリートの発掘・育成

今後の施策展開

(2) 世界に羽ばたくアスリートの育成・強化

① 一貫した指導による小学生・中学生・高校生の育成・強化



- 世界で活躍できるアスリートの輩出には、ジュニア期からの発掘・育成・強化、それを実現する一貫指導体制の構築が有効です。
- 群馬県においては、トップアスリートの輩出を続ける競技種目もあれば、全国での活躍が難しい競技種目もあります。
- 各競技種目で、選手の発掘・育成・強化、一貫指導体制の構築やデータ活用を進め、アスリートの育成を促進します。

② 全国や世界で活躍できるアスリート・指導者の育成



- 世界で活躍できるアスリートの輩出には、ジュニア期からの発掘・育成・強化、また、それを実現する一貫指導体制の構築が有効です。
- 指導者については、継続した資質向上の取組と、データ活用、サポート人材との連携、何より指導者として活躍できる場が必要です。
- 各競技種目で、選手の発掘・育成・強化、一貫指導体制の構築やデータ活用を進め、アスリート及び指導者の育成を促進します。

③ 活躍が期待されるアスリートの紹介



- アスリートの活動を広く発信することは、県民から応援してもらうきっかけとなり、企業からの支援獲得等にもつながります。
- こうした取組は、アスリート自身のモチベーションを高める上でも非常に重要です。
- 情報発信には、新聞や雑誌、ラジオ、ウェブサイト、SNS、そして直接的な交流イベント等、様々な手段があります。
- アスリートの魅力を多様な層に効果的に届けるために、メディアミックスを活用し、戦略的かつ継続的な情報発信を進めます。

数値目標

ぐんまスーパーキッズ・スタージュニア プロジェクト競技数

R6 (2024) 年度

16 競技

R12 (2030) 年度

25 競技

施策3. データサイエンスの活用

現状と課題

- アスリートの育成のためには、データサイエンス活用の重要性が高まっており、種目にとらわれずに、定期的な体力測定やフィールドでのパフォーマンス測定、測定結果のフィードバック、または各種スポーツテックを活用した、**データに基づいた動作分析、戦略・戦術分析**等を利用した選手強化を促進しています。
- 今後は、より多くの種目で、種目特性に適した各種測定を行い、同時にデータを活用できる練習環境・指導体制を構築し、群馬県から世界で活躍する選手が誕生するために支援していきます。

スポーツ医・科学活用事業実績（R6（2024）年度末時点）

スポーツテック導入事業

20 団体

（中体連・高体連含む）

データサイエンスの活用

各種測定事業

延べ 51 団体
延べ 1,448 人

定期的なパフォーマンスチェック

メディカルサポート事業

17 団体

トレーナー・スポーツ栄養士の導入

施策3. データサイエンスの活用

今後の施策展開

(1) データサイエンスを活用したアスリート育成

① データサイエンスやスポーツテックを活用したアスリート強化



- ・県内トップ層の育成現場では、個々の選手に合わせたトレーニングの最適化等の観点から、データサイエンスを活用したアスリート強化の取組が急速に進展しています。
- ・しかし、専門的な測定機器や人材の不足により、データサイエンスの活用が進んでいない競技もあります。
- ・データサイエンスの活用をさらに進めるには、スポーツテックの導入、データを定期的に測定・分析し、その結果をアスリートにフィードバックする体制の確立及びサポート人材の確保が重要です。
- ・また、データを短期的に利用するだけでなく、長期的に蓄積することにより、さらに効果的な選手強化策が継続的できるよう取り組んでいきます。

(2) アナリスト・スポーツドクター・スポーツ栄養士・アスレチックトレーナー等を活用したパフォーマンスの向上

① 健康体力測定とフィールド測定の実施



- ・アスリートの強化には、健康体力測定（専門施設での測定）とフィールド測定（現場での測定）の双方が不可欠です。
- ・しかし、専門的な測定機器や人材の不足から、すべての競技で定期的な測定体制を構築できていないのが現状です。
- ・今後は、専門人材の確保・育成を進めるとともに、健康体力測定とフィールド測定を組み合わせることで、アスリートの基礎能力向上と、それを実戦で活かすための戦略的なコンディション管理等に取り組み、より効果的なアスリート強化体制を構築します。

② スポーツ栄養士・アスレチックトレーナー等の活用



- ・選手のコンディションを最高の状態に保つためには、スポーツ栄養士やアスレチックトレーナーといった専門家によるサポートが不可欠です。
- ・しかし、現状は専門人材の不足に加え、アスリートやチームと専門人材との適切なマッチングが行われておらず、必要なサポート体制を整えられていない競技もあります。
- ・今後は専門人材の確保・育成を進めるとともに、アスリートやチームが必要なサポートを受けられるようなマッチングの仕組みを構築し、競技力向上だけでなく、アスリートの長期的な健康維持にも貢献する総合的なサポート体制を構築していきます。

施策3. データサイエンスの活用

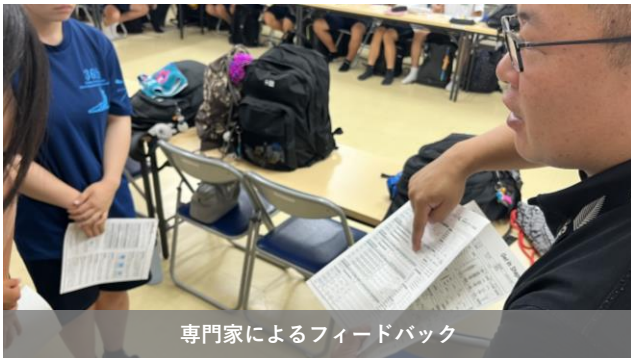
今後の施策展開

(3) 医・科学支援体制の構築

① 専門人材と連携したアスリート支援体制の構築



- アスリートが安心して競技に打ち込むためには、怪我や疾病を適切に管理・治療できる医・科学支援体制が不可欠です。
- この体制の中核を担うのが、スポーツドクター（怪我診断・治療・復帰）やスポーツファーマシスト（アンチドーピング）といった専門人材です。
- しかし、専門人材の活用については、アスリートやチームとの適切なマッチングが行われていない事例もあり、さらなる連携が求められています。
- 今後は専門人材との連携を進め、アスリートが迅速に専門家のサポートを受けられるような仕組みを構築していきます。
- これにより、競技力向上だけでなく、アスリートの怪我予防や、適切な機能回復と競技復帰、長期的なキャリア形成にも貢献できる支援体制を目指します。



専門家によるフィードバック



フィールド測定の実施

数値目標

健康体力・フィールド測定

R6(2024) 年度

1,347 件

R12 (2030) 年度

2,000 件

施策4. アスリートをサポートする人材・組織の育成

現状と課題

- 群馬県では、ジュニアの発掘・育成・強化に取り組み、一貫指導体制により、世界で活躍するアスリートに成長させ、やがて指導者として群馬県に戻ってくる循環のしくみ（ぐんまハイパフォーマンスシステム）づくりに取り組んでいます。
- しかし、高校・大学年代の強化拠点が県外であった場合には、卒業後に群馬県に戻るアスリートは少ないことから、**アスリートが選手や指導者として群馬県で活動できる環境**を整備する必要があります。
- また、アスリートをサポートする人材・組織の育成のために、指導者資格取得の支援や、データサイエンスの活用支援体制を構築しています。
- 今後は、専門職種との連携体制を構築する、各種測定の実施やスポーツテック等を活用し、**より効果的な指導・強化体制**を構築し、群馬県から世界で活躍するアスリートが誕生するよう支援をしていきます。
- さらに、誰もが主体的にスポーツに関わる機会として、「みる」「ささえる」の視点が重要ですが、その魅力や参加の場は十分に周知・定着していません。
- 応援やサポートを通じてアスリートとつながり、地域や世代を超えて一体感を育む**「応援文化」**を根付かせる必要があります。

施策4. アスリートをサポートする人材・組織の育成

今後の施策展開

(1) 指導者等の養成・確保

① 質の高い指導者等の養成



- アスリートの競技力向上には、指導者の資質向上が不可欠です。
- データを活用した指導や、メンタルケア等、指導者の知識とスキルは、アスリートの成長を大きく左右します。
- しかし、指導者の資格取得や研修には、費用と時間がかかるため、指導者が継続して学べる環境を整えていくことが必要です。
- このため、継続的な資格取得支援や、セミナーを開催するなど、指導者が学びやすい環境を整備することで、質の高い指導者を増やし、アスリートが安心して競技に打ち込める体制を構築していきます。



(2) 競技力向上に関わる団体等の組織強化

① 競技団体や民間事業者等との連携



- 競技力の向上や地域から応援してもらうためには、競技団体や民間事業者との連携が不可欠です。
- 民間事業者との連携は、スポンサー獲得や資金援助といった面で、スポーツ活動を支える重要な基盤となります。
- 民間事業者側のニーズと、競技団体の求める支援内容をマッチングする場を設けるなど、民間事業者によるスポーツ支援やパートナーシップが進むよう取組を推進します。

② スポーツを実施する者の安全・安心の確保（競技スポーツ）



- スポーツに安全・安心して取り組める環境を整備することは、スポーツの価値向上に不可欠です。
- 怪我や事故、熱中症、疾病の予防といった身体的安全対策に加え、ハラスメント、いじめ、差別、盗撮等の諸問題についても、積極的に改善していく必要があります。
- アスリート、指導者及び保護者等、様々な関係者と連携し、セミナーや予防啓発、相談窓口の設置等を通じて、誰もが安心してスポーツを楽しめる環境づくりを推進します。

施策4. アスリートをサポートする人材・組織の育成

今後の施策展開

③ スポーツ・インテグリティの強化（競技スポーツ）



- ・スポーツが持つ信頼と価値を守るためには、スポーツ・インテグリティを確立することが重要です。
- ・ドーピング、八百長、不正な金銭授受といった問題は、スポーツの根幹を揺るがし、人々からの興味・信頼を失わせます。
- ・このため、各競技団体には、選手強化や大会運営に取り組むだけでなく、組織の規律と体制強化に取り組むことが求められています。
- ・具体的には、行動指針やグラウンドデザイン等のルール策定や、組織の透明性とガバナンスを確保するための法人化が有効な手段となります。
- ・引き続き、スポーツ・インテグリティの必要性を啓発・周知し、競技団体の取組を積極的に支援していきます。

(3) アスリートに理解のある企業の拡大

① 群馬県のスポーツ界における好循環の創造



- ・群馬県で働きながら競技を継続し、引退後は指導者としての活躍を希望するトップアスリートとそれを支える企業をマッチングし、群馬県のスポーツ界に好循環を生み出す「アスリート・ジョブサポートぐんま」事業を展開します。

(4) アスリートを応援する文化の醸成

① 湯けむり国スポ・全スポぐんまの応援参加の促進



- ・湯けむり国スポ・全スポぐんまを通じ、スポーツの感動を享受するとともに、応援により選手を支える喜びを味わうことで、アスリートを応援する文化の醸成につなげるため、両大会における選手への応援を促進します。

数値目標

「アスリート・ジョブサポートぐんま」事業で
採用したアスリートの人数（延べ）

R6 (2024) 年度

5 人

R12 (2030) 年度

22 人

● eスポーツ

「エレクトロニック・スポーツ」の略。広義には、電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す。

● アーバンスポーツ

BMX、スケートボード、ブレイクダンス等の都市型スポーツのこと。

● データサイエンス

蓄積されたデータを分析することで、有益な情報を得たり、課題を解決したりする試みのこと。スポーツにおいては、アスリートのパフォーマンスや試合データ等を収集・分析し、アスリートの育成やチームの戦略立案等に活用する取組を指す。

● 総合型地域スポーツクラブ

子どもから高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多種）、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブのこと。

● ぐんま元気（GENKI）の5か条

すべての県民が、生涯にわたり、元気にいきいきと幸せな生活を送ることができるよう、取り組んでほしい健康づくりの実践事項のこと。

第1条 G げんき（元気）に動いて ぐっすり睡眠 （運動・休養）

第2条 E えんぶん（塩分）ひかえて 食事はバランスよく （食生活）

第3条 N なかま（仲間）をつくって 健康づくり （社会参加・健（検）診）

第4条 K きんえん（禁煙）めざして お酒は適度に （喫煙・飲酒）

第5条 I いいは（歯）を保って いつも笑顔 （歯と口・こころの健康）

● G-WALK+

群馬県民の日々の健康づくりの取組をサポートするための県公式アプリ。歩数の自動記録のほか、体重・血圧や食事写真の記録、健（検）診受診状況の記録を行うことができる。また、健康づくりに関するコラムやラジオ体操などの動画も配信している。健康づくりの活動をポイント化することでインセンティブを付与し、自主的な健康づくりの取組と定着を目指している。

● デモンストレーションスポーツ

国民スポーツ大会における正式競技・特別競技・公開競技以外の競技で、県民誰もが気軽に国民スポーツ大会に参加できる機会を設け、生涯を通じてスポーツに親しむきっかけ作りや、世代間・地域間の交流の輪を広げることを目的に、国民スポーツ大会競技の一つとして行われる。

● ぐんま部活動・地域クラブ活動指導者・サポーターバンク

学校部活動の地域連携・移行における課題の一つである「指導者等の確保」の解決に向け、スポーツ指導者等と市町村や中学校、地域クラブとのマッチングをサポートすることを目的に、群馬県が設置した仕組み。

● スポーツ・インテグリティ

スポーツが、様々な脅威（ドーピング、八百長、贈収賄等）により欠けることなく、価値ある高潔な状態のこと。

● クラブアドバイザー

総合型地域スポーツクラブが地域スポーツの担い手として重要な役割を果たしていけるよう、クラブの創設から自立・活動までを一体的にアドバイスすることを目的に活動しているアドバイザーのこと。

● 体力向上プラン

各学校が、新体力テスト等の結果をもとに、自校の児童生徒の実態を把握し、課題に即した学校独自の計画を立てて実践する体力向上のための総合的な取組のこと。

● 子どもの体力向上ガイドブック

体力向上推進モデル校や体力向上取組優良校の取組、子どもの体力向上指導者研修会の資料等、各学校における体力向上の参考となる資料をまとめた冊子のこと。

● 群馬県スポーツ競技力向上対策推進本部

「湯けむり国スポ・全スポぐんま」において、開催県として天皇杯・皇后杯の獲得、パラスポーツの普及を目指すとともに、大会を契機として、さらなる群馬県スポーツの発展と選手強化の仕組みづくりに寄与することを目的に、令和7（2025）年3月19日に設立された組織のこと。

● データサイエンス

蓄積されたデータを分析することで、有益な情報を得たり、課題を解決したりする試みのこと。スポーツにおいては、アスリートのパフォーマンスや試合データ等を収集・分析し、アスリートの育成やチームの戦略立案等に活用する取組を指す。

● ライフパフォーマンス

困難な状況に陥ったとしてもそれを乗り越える力であり、それぞれのライフステージにおいて、環境変化や心身の変化を知覚し、心身機能を適応させながら、個々の課題解決や目標達成に向けて発揮できる能力のこと。

● パラスポーツ普及メンター

パラスポーツ競技人口の増加という課題解決を目的に、パラスポーツ普及の旗振り役を担う人材。障害やパラスポーツに関する専門的な知見を活かして、効果的な普及に取り組む。群馬県パラスポーツ協会に所属。

● リバースエデュケーション

子どもが学んだ知識や価値観を、家族や周りの大人に教え、伝えることで、地域や社会に浸透させていく「逆向きの教育」の概念のこと。

● 情報支援ボランティア

手話通訳者や要約筆記者等の、聴覚障害者への情報支援を図るとともに、すべての人に分かりやすい情報提供を行うボランティアのこと。

● イノベーション・ハブ

県内外の様々な分野の「人」や「アイデア」が繋がり、新たなビジネス、まちづくり活動等が醸成される場のこと。

● YAOP

Young Athletes Overseas Programの略。令和7（2025）年度より群馬県が開始した、ジュニアアスリートの海外派遣支援事業のこと。

● リトリート

忙しい日常から離れてゆったり心と身体を癒やし、自分をリセットする過ごし方のこと。

● ぐんま県境稜線トレイル

群馬県ならではの「豊かな自然環境」を活かし、アウトドアスポーツの振興を図るとともに、国内外からの観光客の増加や地域の活性化等を目指して整備した、県境の山々の稜線100kmに渡る国内最長の稜線ロングトレイルのこと。

● スポーツツーリズム

スポーツの参加や観戦を目的として地域を訪れることや、地域資源とスポーツを掛け合わせた観光により交流人口の拡大や地域経済への波及などを目指す取り組みのこと。

● PFI

Private Finance Initiativeの略。公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法のこと。

● スポーツテック

スポーツとテクノロジーを掛け合わせた言葉。スポーツ分野で導入されるIT技術のことを指し、効果的なトレーニングの実施や競技における判定や観戦方法の改善等、活用は多岐にわたる。

● アスレチックトレーナー

選手の健康管理やケガの予防、パフォーマンスの向上等、アスリートを様々な面からサポートするスタッフのこと。

● スポーツファーマシスト

アンチ・ドーピング規則及びスポーツ薬理学、スポーツ医学、スポーツ科学に関する知識を有する薬剤師のこと。

● ぐんまハイパフォーマンスシステム

ジュニア選手を発掘・育成し、全国や世界で活躍した選手が、やがて群馬県内で指導者となり、選手の育成・強化に取り組む循環型の「持続的な競技力向上体制」を、「ぐんまハイパフォーマンスシステム（HPS）」と定義づけ、群馬県の競技力向上対策の根幹としている。

● アスリート・ジョブサポートぐんま

競技を続けながら群馬県内での就職を希望するアスリート（指導者も含む）と、アスリートを社員として受け入れ、競技活動を支援してくれる県内企業とのマッチング事業のこと。令和2（2020）年8月から開始している。